

# さらば男子校



2007

総明会会報

明治大学附属明治高等学校・中学校 同窓会

# 明治中學校校歌

## 校歌

### 一章

帝都の真中駿河臺、

遙かに望む富士のねの

高き理想の影追ひて

集る健児勇ましや

### 三章

忠と孝の大糸を

色どる正義、愛、誠

我等が胸をかざるべき

大和錦の美ならずや

### 二章

學びの高嶺文の海、

嶮しく荒き行末を

懼れず笑みて進みゆく

我等が意氣は天を呑む

### 四章

世界に王たる日の本の

國民の基と身をなして

我等が校の名を掲けむ

我等が國の威を掲けむ

### 二、權利自由の揺籃の

歴史は古く今もなほ

強き光に輝けり

独立自治の旗翳し

高き理想の道を行く

我等が健児の意氣をば知るや

我等が健児の意氣をば知るや

### 一、白雲なびく駿河台

眉秀でたる若人が

撞くや時代の暁の鐘

文化の潮みちびきて

遂げし維新の栄になふ

明治その名ぞ吾等が母校

明治その名ぞ吾等が母校

### 三、靈峰不二を仰ぎつつ

刻苦研鑽他念なき

我等に燃ゆる希望あり

いでや東亜の一角に

時代の夢を破るべく

正義の鐘を打ちて鳴らさむ

正義の鐘を打ちて鳴らさむ

作詞 児玉 花外  
作曲 山田 耕筰

(学)明治大学 理事長

長吉 泉

(学)明治大学 学長

納谷 廣美

明治高校・中学校 校長

小林 正三郎

(昭和三十三年卒)

# 総 明 会

昭和59年開催の第20回総会において命名された。  
初代校長の鶴澤総明先生のお名前をいただき、かつ、  
明中高同期会と同窓生の総体の連帯を意味するものである。



## 目 次

- 2 総会・懇親会のご案内
- 4 会長挨拶
- 5 校長挨拶
- 7 2006 年度活動報告
- 8 2006 年度会計報告ほか
- 9 評議会名簿
- 11 チャリティゴルフ大会
- 15 さらば男子校 ～さらなる飛躍へ～
- 37 さらば駿河台
- 53 同期会・クラブOB会報告
- 75 学校報告
- 80 寄付一覧
- 82 恩師の訃報
- 83 幹事学年挨拶（前年度・次年度・今年度）
- 87 総明会 新会則
- 92 創立100周年寄付のお願い



## 表紙について

表紙の写真は  
**男坂と応援団旗。**  
撮影は  
紫魂会会報委員 **遠藤安彦** による。

## 第43回総明会総会・懇親会のご案内

**日時：平成 19 年 11 月 17 日（土曜日）**

**場所：総 会 午後 2 時**

**明治高校視聴覚教室**

（総会終了後学内の見学、男坂での各同期会写真撮影を予定しております）

**懇親会 午後 4 時（受付 3 時30分～）**

**明治大学アカデミーコモン**

### 「さらば男子校～さらなる飛躍へ～」

明治高校中学校卒業生の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

上記ご案内のとおり本年も総明会総会・懇親会の季節がやってまいりました。本年度幹事学年は我々（昭和55年卒・紫魂会）が務めさせていただきます。皆様すでにご承知のことと思いますが、来年度より我が明治高校中学校は調布へ移転致します。そこで本年は総会・懇親会を総明会会員の思い出の地であり、青春を謳歌した駿河台で行ないます。総会は明治高校視聴覚教室で、懇親会は明治大学アカデミーコモンで開催致します。総会后、男坂での各同期会写真撮影を企画しておりますので同期の方とお誘い合わせの上、ご出席の程よろしく申し上げます。また、懇親会におきましても紫魂会一同、ない頭をしぼり皆様に楽しんで頂ける企画を考案中です。乞うご期待下さい。

今回の会報は移転を機に男女共学になるということで「さらば男子校」をテーマに構成させていただきました。男子校ならではのエピソードが満載ですので、昔を思い出しご一読頂ければ幸いです。

11月17日、皆様、ご多忙の事とは存じますが何卒万障お繰り合わせのうえ、多数の方のご出席を幹事学年一同心よりお待ち申し上げます。



## 懇親会会場のご案内：最寄り駅JR御茶ノ水駅 御茶ノ水橋口



## 会 費

一般会員	10,000円
シニア会員(40年卒以前)	8,000円
ヤング会員(H12～15年卒)	8,000円
現役学生	3,000円
ご同伴者	5,000円

※ご出席の方のみ、お手数ですが確認のため同封の返信はがきに楷書にてご記入の上、投函してください。

※返信はがきで申し込まれなかった方も当日参加できますので、是非お誘い合わせの上、ご参加下さい。

## 第43回 総明会総会 式次第(案)

- 一、開会の辞
- 二、会長挨拶
- 三、議長選出
- 四、書記選出
- 五、議事進行

第一号議案 会務報告

第二号議案 会計報告

第三号議案 監査報告

第四号議案 会長及び副会長選出

その他

六、閉会の辞

尚、式次第については、再度総明会ホームページでご確認下さい。

## 総明会会長挨拶

明治大学付属明治高等学校・

中学校同窓会

総明会会長 佐久間 洋一



諸先輩方が築き上げてこられた伝統ある総明会を一層発展させたいと取り組んできましたが、会長就任から4年近い現在、一万二千名余の会員を擁する組織を運営しているだけに改めて責任の重さを痛感しております。

さて、いよいよ来春、母校は調布へ移転し、神田駿河台における95年間の歴史の幕を閉じつつあります。「さらば、男坂!」、臉を閉じていても駅から校舎へ辿り着けるほど慣れ親しんだ道、風景を思い浮かべると一抹の寂しさを覚えますが、母校の発展、飛躍という観点からすれば、感傷に浸ってばかりもいられません。

来春の調布校舎竣工という喜ばしい出来事が、1世紀近い歴史を持つ当校の豊かな伝統と創立の精神をさらに力強く、確実に受け継いでいく機会になることを確信しています。次の100年の歴史を刻むため、在校生徒、諸先生のみならず、同窓生も機会を作って訪問し、この新校舎を愛情をもって

使い込み、創立の精神が漂う校舎になるよう努力すべきだと思います。

今年の総明会の総会、懇親会は、神田駿河台の校地における最後の集いに相応しく、総会が現校舎、懇親会が大学の「アカデミーコモン」にて開催されます。この1年余り、幹事学年である「紫魂会」の皆さんが多忙な業務の傍ら懇親会の設営に取り組んでこられました。久しぶりに級友、恩師、先輩、後輩と熱く語らい、この日ばかりは多感で不安定な青春時代の懐かしさにどっぷりと浸って下さい。同窓生である私たちがより親睦を深め、揺るぎない絆で5年後の創立100年の節目に向けて協働しましょう。ぜひ、懇親会にはご家族、ご友人をお誘いいただき会場へお越しください。最後に、役員一同お待ちしております。

最後に、会員の皆様方には今後とも同窓会の活動にご理解を頂くとともに、忌憚ないご意見を頂きたいと思っております。そしてより一層相互の連携を厚くし、我々が母校の発展にご支援とご協力をお願い申し上げます。

# 母校 明中高の校長に就任して

校長 小林 正三郎



4月1日付で母校明中高の校長に就任した小林正三郎でございます。日頃は総明会役員および会員の皆様には母校明中高の学校運営に多大なご支援ご理解を賜り、心から厚く御礼申し上げます。いよいよ来年4月調布新校舎に移転、同時に1912年開校以来、初めて男女共学制を導入し、歴史的転換期を迎えます。調布新校地は敷地が現行の5.5倍、建物面積は2倍と施設が拡充・整備され、この上ない恵まれた教育環境になります。教育面では本校の基礎学力の徹底・充実を図ることを基本に、大学との連携を今まで以上に緊密化し、高大連携教育を柱の一つとしたいと思っています。一方、私学としての本校の特色・良さをどうアピールしていくか、恵まれた施設・環境を最大限に活用し、長い歴史と伝統を踏まえてスポーツ・文化活動の飛躍的強化に取り組みでまいります。スポーツを通じ、厳しい鍛錬・努力をすることによって、人間性豊かな礼節を重んじる人材の育成、人間教育に力を入れていきたいと考えております。

私の明高野球部時代は同級生のエースとして、村田元一投手（元国鉄スワローズで

活躍）を擁し、東京代表を狙うチームでしたが、惜しくも準決勝で早実に2-1で敗れ、涙をのみました。（1956年7月）その2年後、宮沢政信キャプテンのもと、東京の高校球史に今も燦然と輝く快挙として、決勝戦で宿敵早実に延長12回裏6-5で大逆転し、夏の甲子園に出場しました。その時の早実のキャプテンは王貞治氏で、この敗戦が同氏の野球人生に大きな影響を与えたと述懐されております。

明高OB・先輩方の母校に対する熱き思いは、身にしみて感じております。思いがけずも今回責任者として、野球部をはじめ部活の強化・復活をどう図っていくかが、私に課せられた課題の一つと想っております。調布新校地における明中高の学校運営につきましては、地域との共生、協調も大切な課題でありますが、OB、PTA保護者の皆様との連携強化が一層重要になると思っております。今後とも更なるご支援ご協力をお願い申し上げます。最後になりましたが、総明会のますますのご発展をお祈りいたします。

## 新校長の経歴

2007年4月に就任された小林校長は、珍しく明中高OBでかつ民間出身ということもあり、ここに簡単な経歴を記します。

氏名	小林 正三郎（こばやし しょうざぶろう）
生年月日	1939年（昭和14年）2月1日
学歴	1954年（昭和29年）3月 明治大学付属明治中学校卒業 1957年（昭和32年）3月 明治大学付属明治高等学校卒業 1961年（昭和36年）3月 明治大学商学部卒業
職歴	1961年（昭和36年）4月 株式会社日立製作所入社（宣伝部配属） 1989年（平成元年）10月 株式会社日立製作所家電広告部長 1993年（平成5年）6月 株式会社日立製作所宣伝部長 1995年（平成7年）2月 株式会社日立柏レイソル常務取締役 1997年（平成9年）6月 株式会社日立柏レイソル代表取締役社長 [2003年（平成15年）2月まで]
主な役職	学校法人明治大学評議員 明治大学校友会監査委員 明治大学駿台体育会副会長 財団法人日本学生野球協会監事 社団法人野球体育博物館評議員 社団法人日本プロサッカーリーグ参与 （2004年6月まで理事） 以上

総明会 顧問(昭和32年卒・明治会)

# 山崎敬生



市原企業株式会社 代表取締役  
〒299-0102 市原市青柳 2-1-23

## 2006年度活動報告

専務理事 関谷 芳久

総明会は、本年度43回目の総会を迎えます。明治中・高が御茶の水における最後の総会となります。OBの連帯を育て、母校との協力関係、賛助活動を維持推進する事を目的としてまいりました。今後とも、益々皆様の御協力を得て、すばらしい同窓会を創り上げていきたいと思っております。さて昨年12月3日に、セルリアンタワー東急ホテルにおいて開催された第42回総会以後、本年10月までの活動報告を申し上げます。

☆新入会員は2007年3月の卒業式で新たに208名の新入会員を迎えました事を、報告致します。

☆総会は、第42回を迎え、昭和54年卒同期会「明誠会」の

担当で、テーマは「男坂讃歌（未来の後輩たちへ）」を掲げ、日曜日の夕方、渋谷のセルリアンタワー東急ホテルに於いて総入場者数404名という大盛況の内に開催されました。明誠会の名の入った揃いのハッピは、さながら新撰組を思わせる威風堂々たるもので、明治祭りにふさわしく、質実剛健の明治らしさを未来の後輩たちへ充分伝えられたと思います。今年の総会では、3年間に及ぶ組織検討委員会の努力の成果である新しい総明会の会則が満場一致で認証され、評議員会は総会に次ぐ議決機関であることの再確認や、会長選考規定や、各班部OB会からの1名の評議委員選出等の新しい会則が決まり、これからの総明会発展に益々これらが寄与する事を御報告致します。

ます。

☆評議員会は、本年より班部OB会より代表1名の出席をいただき、新しい評議員として、従来の学年評議員と一緒に諸問題を、協議する様になりました。

☆理事会は、執行部と各委員会委員長により年4回開催され、今年は、4月に我々の先輩で総明会前会計監査の小林正三郎氏が新校長に就任され、さっそく15日には今後の総明会について話し合いの場を持ちました。

☆会長、副会長選出委員会は新しい会則に基づき、評議会、理事会から3名の委員を選び、17年卒の安藤賢司氏に、委員長をお願いし、選考会を充足致しました。

☆イベント

①武陵会（明大中野同窓会）

の総会出席や懇親会、幹事会を通して親睦交流。

②白駿会（明高父母の会OB会）は今年40周年を迎え、前会長や顧問、現役員の総勢11名が招待を受け、にぎやかに祝う事が出来ました。

③第13回総明会チャリティーゴルフ大会は、6月3日富士OGMゴルフクラブで開催し、85名の参加で行いました。その結果、学校に六万壱千円のチャリティーが出ました。1名も参加しない代があり少し残念でした。

☆学校行事参加は、卒業式、入学式、球技大会、紫紺祭、オリエンテーションにおける総明会の学校説明会を行いました。今年はまた、新校舎に総明会としてのモニュメントの寄贈も予定しております。以上活動報告と致します。

## 総明会 2006年度 一般会計報告

(自) 2006年4月1日～(至) 2007年3月31日

単位：円

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	11,883,385	会議費	960,924
新入会員入会金	2,080,000	交流費(学校他)	841,408
新入会員永会費	2,080,000	通信費	0
学年会費	600,000	事務費	133,525
雑入(会議費、他)	841,660	各委員会活動費	1,612,467
寄付金	50,000	雑費	130,712
貯金利息	4,485	基金へ組入れ	5,100,000
		次年度繰越金	8,760,494
合 計	17,539,530	合 計	17,539,530

## 総明会 2006年度 基金会計報告

(自) 2006年4月1日～(至) 2007年3月31日

単位：円

基金区分	2005年度末残金	2006年度増減額	適用	2006年度繰越金
事業遂行会計	6,395,000	5,000,000	一般会計から繰入	
		4,451	利息	11,399,451
財政基盤基金	7,905,194	100,000	一般会計から繰入	
				8,005,194
校舎移転・100周年記念事業特別基金	0	2,542,000	寄付金募集	
				2,542,000

上記のとおり報告いたします。  
会 計 佐久間洋一  
監査の結果相違ありません。  
監 査 伊藤 茂雄

2007年3月31日 会 計 中村 正容  
2007年5月28日 監 査 阿部 正行

## 総明会 2007年度 一般会計予算案

(自) 2007年4月1日～(至) 2008年3月31日

単位：円

収入の部		支出の部	
項 目	金 額	項 目	金 額
繰越金	8,760,494	委員会活動費	2,073,000
新入会員入会金	2,160,000	本部等	2,007,000
新入会員永会費	2,160,000	事業遂行特別会計へ	1,500,000
学年会費	720,000	次年度繰越金	8,850,494
雑入	626,000		
寄付	0		
利息	4,000		
合 計	14,430,494	合 計	14,430,494

## 総明会 2007年度 基金会計予算案

(自) 2007年4月1日～(至) 2008年3月31日

単位：円

	2006年度残金	積立金	支出金	2008年度繰越金
事業遂行会計	11,399,451	1,500,000	11,458,000	1,441,451
記念事業会計	2,542,000	1,000,000	3,542,000	0
財政安定化会計	8,005,194	0	0	8,005,194

西調布校舎移転記念品代として、事業遂行会計と記念事業会計から合計1,500万円を支出する。

## 第42回 総明会 特別会計報告

単位：円

収入の部		支出の部	
総会会費収入	3,101,000	総会関係費	4,893,532
総明会より助成金	913,151	会報関係費	2,374,651
寄付・広告	4,905,095	運営関係費	1,603,992
		総明会会計へ戻入	47,071
合 計	8,919,246	合 計	8,919,246

## 第43回 総明会 特別会計予算案

単位：円

収入の部		支出の部	
総会会費収入	3,500,000	総会関係費	4,000,000
総明会より助成金	1,000,000	会報関係費	2,400,000
寄付・広告	3,500,000	運営関係費	1,600,000
合 計	8,000,000	合 計	8,000,000

# 総明会評議会名簿

## 同期会

(敬称略)

卒業年	名 称	氏 名	氏 名
昭和 8年	昭 八 会	市 川 康 夫	宗 像 健一郎
昭和10年		森 田 仁七郎	
昭和11年		板 垣 忠 吉	
昭和12年	明 中 21 会	中 富 光 国	
昭和13年	一 二 会	館 野 春 男	
昭和15年	明 中 26 会	三 笠 光 人	
昭和17年	一 七 会	安 藤 賢 司	
昭和18年		落 合 博	
昭和19年	明 中 二 八 会	鈴 木 昌 英	
昭和21年	午 巳 の 会	齊 藤 久 也	
昭和22年	午 巳 の 会	菅 田 敏 夫	
昭和24年	明 高 1 期 会	大 西 敏 新	
昭和25年	明 二 会	小田川 玉 城	高 橋 信 雄
昭和26年	猿 楽 会	寺 村 武 二	高 熊 井 山 耕 実 右
昭和27年	明 高 会	渡 邊 幹 一	米 山 郎 行
昭和28年	明 窓 会	戸 田 偉 行	山 本 峰 司
昭和29年	29 会	矢 島 彰 健	山 本 川 雄 弘
昭和30年		石 田 健 一	宇 田 出 育 男
昭和31年	明 楽 会	佐 藤 正 三	大 郎
昭和32年	明 治 会	小 林 正 三	藤 田 義 茂
昭和33年	三 三 会	鈴 木 寿 雄	
昭和34年	旧 雨 会	加 藤 佳 一	
昭和35年	珊 瑚 の 会	倉 林 貞 夫	天 野 洋 一
昭和36年	明 駿 会	加 藤 貞 義	谷 中 村 哲 正
昭和37年	37 会	戸 谷 誠 昭	高 橋 正 健
昭和38年	二 年 に 一 会	三 浦 藤 仁	
昭和39年	一 一 七 会	佐 藤 正 行	
昭和40年	明 優 会	阿 部 秀 次	菊 本 哲 也
昭和41年	41 明 友 会	小 川 康 郎	新 村 秀 男
昭和42年	M 41 会	結 城 村 夫	小 田 島 保 男
昭和43年	紫 讀 会	志 村 一 康	中 河 孝 樹
昭和44年	男 坂 俱 楽 部	寺 田 康 夫	比 留 間 竹 郎
昭和45年	獅 子 の 会	山 形 村 茂	金 子 敏 一
昭和46年	明 潮 会	木 野 宏 士	内 名 倉 実 之
昭和47年	四七四七同志酔会	廣 老 根 一 郎	大 前 部 栄 一
昭和48年	波 の 会	海 崎 一 郎	服 前 田 稲 一
昭和49年	翼 明 会	山 崎 祥 悟	前 石 黒 理 樹
昭和50年	明 紫 会	三 森 林 幸 洋	竹 水 上 泰 裕
昭和51年	明 々 会	小 大 西 口 章 好	前 渡 齊 木 麻 州
昭和52年	男 子 校 根 性 組	大 井 熊 倉 迫 間	見 山 塚 達 宏
昭和53年	紫 友 会	大 井 熊 倉 迫 間	大 二 森 光 岡 孝 之
昭和54年	明 誠 会	大 出 見 大 二	
昭和55年	明 魂 会	大 出 見 大 二	
昭和56年	明 翔 会	大 出 見 大 二	
昭和57年		大 出 見 大 二	
昭和58年	明 輪 会	大 出 見 大 二	高 橋 浩 二
昭和59年		大 出 見 大 二	北 川 愛 郎
昭和61年		大 出 見 大 二	
昭和63年		大 出 見 大 二	米 持 貴 史

卒業年	名 称	氏 名	氏 名
平成 2年		鈴木 弘 和	森 正 樹
平成 3年		山口 一 郎	斎 藤 直 宏
平成 4年		小畑 啓 利	福 田 浩 茂
平成 5年		安藤 高 利	長 野 吉 克
平成 6年		河村 健 一	新 村 哲 也
平成 7年		石田 頼 央	金 子 敦 史
平成 8年		青木 大 樹	三 村 具 永
平成 9年		小谷 健 志	香 川 満 洋
平成10年	紫 98 俱	秋 山 光 億	平 田 健
平成11年	明 哲 会	石 川 一 仁	戸 邊 寛
平成12年	明 瀑 会	玉 木 万 理 夫	保 科 大 輔
平成13年	明 治 21	岡 庭 朋 威	大 橋 弘 頌
平成14年		下 田 良 征	上 原 康 仁
平成15年		大 川 康 介	武 雄 一 郎
平成16年		杉 田 将 平	徳 竹 正 憲
平成17年		室 井 純	荒 川 佳 史
平成18年		大 室 步	田 上 淳 二
平成19年		横 倉 光 輝	大 竹 惇

## 班部OB会

名 称	氏 名
生徒会本部	長谷川 裕
応援指導班	開 発 武 志
新聞班	西 山 光 彦
吹奏楽班	竹 越 利 彦
図書班	平 田 幸 彦
放送班	吉 田 雅 弘
剣道部（見心会）	鈴 木 幸 男
硬式野球部（明球会）	後 藤 勇 三
サッカー部	大 室 智 一
柔道部	小 川 洋 一
水泳部（明水会）	土 屋 隆 昭
スキー部（明雪会）	戸 張 毅
卓球部（明卓OB会）	高 橋 正 侑
庭球部	林 伸 光
バレー部	服 部 雄 二
フェンシング部	伊 藤 秀 文
陸上競技部	櫻 井 勝 也
バスケットボール部	年 田 善 政
アイスホッケー愛好会（明水会）	武 藤 仁
囲碁部	田 島 弘 資
化学部	森 八 一
JRC部	横 谷 昌 明
物理部	井 家 上 哲 史
マンドリン部	赤 岩 大 輔
歴史研究会	山 形 英 明

- 班部OB会の評議員につきましては、現在選出中のOB会もあり確定しておりません。評議員名簿のお名前は班部OB会に連絡させていただいている方となっております。



# 第13回 総明会チャリティゴルフ大会

昭和55年卒紫魂会 加藤 誠

去る6月3日に第13回総明会チャリティゴルフが昨年同様、茨城県の富士OGMゴルフクラブ出島コースにて開催されました。今年も昨年同様お天気に恵まれ、初夏の快晴の中尾島副会長を始め82名の参加者が、プレイを楽しみました。毎年、多数ご参加頂いている34年卒業、44年卒業の先輩から59年卒業生まで幅広い年代がハンデにより一つの競技で競えるのはゴルフならではの醍醐味ではないかと思えます。

今年のチャリティゴルフは、

普段家を空ける機会の多いゴルフファーのご家庭の為、参加賞、飛び賞とも家に持ち帰って喜ばれるものという主旨で地元の佃煮とうなぎという趣向にしました。また、優勝から5位までは、これも同様の趣旨で旅行券を賞品として用意しました。

優勝

44年卒 伊藤 安正

準優勝

44年卒 中尾 恵則

3位

44年卒 藁谷 豊

4位

34年卒 小林 功明

5位

55年卒 志村 和哉

(敬称略)

また、当日幹事学年の運営に不手際があり、ドラコンホールが変更になりましたことをこの紙面を借りて、再度お詫び申し上げます。また、来年も新たな参加者を迎えて盛大に開催できる様に、ゴルフ名簿をメンテナンスの上、来年の幹事に引き継ぎたいと思います。

ご参加頂きました皆様ありがとうございました。



プレイ後の懇親会

総明会									
会 長	副 会 長	副 会 長	副 会 長	専 務 理 事	常 務 理 事	事 務 局 長	会 計		
四 十 三 年 卒	四 十 一 年 卒	四 十 四 年 卒	四 十 五 年 卒	四 十 四 年 卒	四 十 五 年 卒	五 十 年 卒	四 十 三 年 卒		
佐久間洋一	尾島育四郎	服部雄二	吉田耕太郎	関谷芳久	北島一弘	山崎秀樹	中村正容		
紫讃会	四一明友会	男坂俱樂部	獅子の会	男坂俱樂部	獅子の会	明紫会	紫讃会		

昭和43年卒 紫讃会  
総明会 会長

弁護士 佐久間 洋一

事務所 〒104-0061 東京都港区中央区銀座5丁目8番5号  
ニューギンザビル 10号館5階  
電話03-5568-6646 ファックス03-5568-6648

昭和44年卒

総明会  
副会長

服部雄二

男坂俱樂部

昭和41年卒

総明会  
副会長

尾島育四郎

41明友会

昭和45年卒

総明会  
副会長

吉田耕太郎

獅子の会

昭和50年卒

総明会  
事務局長

山崎秀樹

明紫会

昭和45年卒

総明会  
常務理事

北島一弘

獅子の会

昭和44年卒

総明会  
専務理事

関谷芳久

男坂俱樂部

昭和43年卒「紫讃会」

## 福光税務会計事務所

税理士 福光 登志雄

〒228-0803

神奈川県相模原市相模大野7-8-10  
大塚ビル303

TEL 042-747-2933

FAX 042-747-2935

昭和37年卒

## 新趣町法律事務所

弁護士 福島啓充

〒102-0083

千代田区麹町3-7-4秋父屋ビル5階

TEL 3234-0511

FAX 3234-0510

食の安全 オーガニックフード 大自然が育んだ

ニチドウウェナ  wenaewe® 三大特長

① おいしい  
**NON-CHEMICAL**  
化学物質

② 安心・安全  
**NON-GMO**  
遺伝子組み換え

③ 健康  
**NON-BSE**  
狂牛病

総明会の皆様へは会員価格で！  
申し込み  
FAX

37年卒 吉田信行 38年卒 増田利明

株式会社ニチドウ  
東京都葛飾区西新小岩4丁目37番9号  
<http://www.jpnd-nd.com>

中学入試をめざす小学生対象の算数塾です。

# ティープロ算数

## TEACHING PRO

代表 香取 輝忠 (昭和52年卒)

千代田区神田神保町 2-15 第一富士ビル6F

TEL 03-3263-0667 FAX 03-3263-0668 <http://www.tpro.co.jp/>

## 祝 第43回総明会 総会・懇親会

[http://1st.geocities.jp/meiji\\_s54/index.html](http://1st.geocities.jp/meiji_s54/index.html)

祝 第43回総明会総会  
明治高校マンドリン部OB会  
会長 佐伯 亮 (昭和30年卒)

祝 第43回総明会総会・懇親会  
**吹奏楽班OB会**  
会 長 竹 越 利 之  
(昭和53年卒)

祝 第43回総明会 総会・懇親会  
昭和52年卒

**男子校根性組**

<http://www008.upp.so-net.ne.jp/dankongumi/>

# さらば男子校 さらなる飛躍へ



## 私と明治高校

後藤 朋智

私が明治高校と関わりを持ったのは、今から50年前明大を卒業し助手として大学に残った年の夏のことである。指導教授の山本大二郎先生から付属高校の夏期化学実験講習会を担当するよう指示され、初めて明高Ⅲ年生の諸君と顔を合わせるようになった。

実験は高校化学で行うべき実験を主体に行ったが、最終日は楽しんで頂くよう線香花火を作ってもらった。黒色火薬を作り、これを細長く切っ

た和紙にのせ、こより状に巻いて完成するのだが、こよりを作ったことの無い生徒達には苦労していたようである。

線香花火の特徴である最後に放射状にパチパチと広がる燃焼が出ないうちに和紙が燃え切れるものが多かった。当時、東京大学の糸川教授がペンシル型ロケット発射成功との新聞報道があり、これに触発されたらしく残った黒色火薬でロケットを飛ばしたいと生徒の申し出で毛筆の竹筒を加工して、水平発射させたら約10メートル程飛んで拍手喝采。以後講習会の最終日にはロケッ

トを飛ばすのが恒例となった。

3年目には、直径4センチ長さ70センチ位の大きさの鉄製の本格的なロケットを、鉄工所の息子だという生徒が持つて来たので、火薬作りに大変な思いをしたものである。グランドに長椅子でランチャーを作り45度にセットして点火、見事に発射、白煙を引きながら小田急線の線路を越えて農地に落下した。発射大成功の興奮さめやらずの時、駐在所のお巡りさんが自転車でかけつけ、大きな爆発音がしたとか何か事故でも起きたのではと心配顔、一応説明してお引き

取り願ったが、今なら新聞種になる大事件である。50年前の良き時代の忘れられない思い出である。中野高校にも化学実験講習会を行ったがロケット発射は明高のみであった。

講習会を通じて両校生徒の氣質を較べてみると、明高生は明朗で人なつっこい様に思えた。実験終了後、研究室に遊びに来たのは明高生で、中野高校の生徒は引率教諭の注意があったのか実験終了直ちに下校していた。

昭和33年の初頭、総長武田孟先生に呼び出しを受け総長室に伺ったら、付属高校に行

く気はないかと突然の申し出に驚き返答に困った。山本教授には、話は通してあるとのこと、どうやら良田校長の直々の指名による転勤事件らしい。山本先生も色良い返事をされなかったようで先生共々数回新宿の焼き鳥屋に招かれ付属に行けと口説かれた。結果的には明高に異動することに成った。ところがここで問題があった。明大では大学から高校に異動する場合、退職して再雇用になるのとこと、微々たる退職金を頂いて生田の山を降りた。職員の場合はどの部署

に異動しても身分の変動は無いが教員は別口の様だ。同一法人同一組合でありながら明大の格差を感じたものである。昭和33年4月同期採用者7名と明治高校に奉職したが、早い人は3ヶ月で退職、10年後には私一人が居残り定年退職まで御世話に成った。

在職中11人の校長に仕えたが、私学としては異例の人数だと思う。明中高の学校運営が如何に難しかったかを物語る一例ではないだろうか。昭和40年頃から組合の民主化運動の一環として校長公選制を

目指して、都内の公選実施校を訪問し資料収集分析し理事会との合意の上、昭和42年初の公選校長福島則雄先生が就任された。以後10年間務められ明中高の発展に尽力された。私が最も訓育を受けた校長のおひとりである。当時、明大への推薦者は6割程度で、早慶付属の全入制には程遠いものであった。福島校長は全入を目指して各方面に当たられ、結果9割8分迄推薦者数を引き上げ、今日の推薦制度の基礎を築かれた。私も微力ながら校長のお供をして学部巡り

をしたものである。深夜に及ぶ事も多く、市川の国府台のご自宅まで送り、柏の自宅迄帰った事も再三あった。車中色々と教師としての薫陶を受け尊敬すべき校長の一人として今でも心に残るお人柄であった。

来年度より共学校として新天地で躍進する明中高であるが、幾多の困難が待ち構えていると思う。新校長のもと教職員、生徒、保護者、OBが一つになって90年の名誉ある伝統をさらに広げられん事を祈って拙い文を終わります。

新しい明治中学・明治高校に期待するもの

総明会名誉会長 向殿 政男

我々が母校明治中学、明治高校が、創立以来の地であった神田駿河台及び猿樂町を初めて離れ、しかも男女共学になるという。これは教育制度が旧制中学から新制中学・高校に変わったとき以来の、いや、それ以上の大変革である。終戦後に母校が新制に変わった時、旧制中学の校風は新制中・高校に受け継がれたかという、自由、剛健という建学の根本精神は変わらないが、実質的には全く別な学校になっ

たといってよいだろう。卒業後の活躍の分野が異なるだけでなく、総明会の総会や懇親会でお会いして旧制卒業の先輩と、我々のようなそれ以降の新制卒業生とお話をする時、明治が好きだという一点は全く同じであるにもかかわらず、その気風、すなわち心のあり方がかなり異なっていることを実感させられるのは私だけではないだろう。教育とは恐ろしいものである。それでも、総明会では、旧制も新制も区別無く、一つとなって仲良く、巣立った母校を慕っ

て集ってくる。同窓生とはありがたいものである。教育制度が変わっただけでこれだけの違いがあるとすれば、制度と共に場所も変わる今回の移転が、明治中学・高校を大きく変えることは間違いない。時代が代わり、事情や条件が変われば学校も変わって行くのは当然であり、それが本来の姿であろう。伝統とは、根本的な理念を維持しながらも、常に時代に対応して変わって行くことにより初めて維持されるものである。新制以来の我々が培ってきた明治中学・

高校の校風はどうなるのか、どのように引き継がれるのか、という主張よりは、新しい学校をどんな学校にして欲しいか、どんな学校になって欲しいか、という夢と要望のほうかはるかに重要だろう。新しい時代へ向かうに相応しい新しい中・高校を築き上げるには、大変良いチャンスである。明治という学校は、中学、高校はもとより、大学も含めて不思議な性質を有している。それは、明治に関連した人はますます明治が好きになる、明治を卒業した人は年を取れ



ば取るほど明治が好きになる、という性質である。これらもう誇るべき一つの校風である。在校生や卒業生を取り巻く家族までも巻き込んで明治の大ファミリーを構成するようになる。国公立や他の私大などではなかなか見られない現象である。在校生の両親の熱心さを見ればこのことがわかるし、自分の息子や娘を明治に入れたという卒業生が極めて多いということも、このことを示している。これはこれまでの明治の教育の重要な成果の一つであると言えるよう。

この明治の誇るべき校風を担っているのが、明治大学の直系の付属であり、明治大学の学生を中心であるべき明治中学・高校の卒業生である。最近の明治中学・高校の教育がこのような成果を何十年後に示すか否かはまだ分からないが、是非、母校が西調布に移っても、母校は明治大学の中で、明治のこの良き校風を保持する核になる卒業生を送り込み続けて欲しいと願っている。明治中学・高校の教育の特徴、良さはどこにあるのであろうか。それは、生徒の自由性と

多様性を尊重するところ、そして、生徒が自分から進んで自分の道を切り開いていくところにある、すなわち、いろいろな多様な価値観の存在を認め合い、お互いの個性を尊重しながらも、各自の道を見つけて自ら努力をして道を切り開いていくところにあると信じているし、そうあって欲しいと願っている。教師はこれのためには、Teaching(教えること)よりは、Education(能力を引き出すこと)を重視する教育をする必要がある。その反対が、教師にとって楽

である規律に従った画一的な教育であり、その教育結果が指示待ち人間の大量輩出である。多くの受験校が落込んでいるこの欠陥に陥らないところに明治中学・高校の教育の特徴、良さと、目指すべきところがあると信じている。確かに神田猿樂町に居たときには、ああ、これは正しく明治中学・高校の生徒である、といった独特の特徴と雰囲気醸し出していた。西調布に移れば、入学してくる生徒の家庭環境も地域文化も異なり、校舎や運動場も広くなって教

育の設備・設備環境も異なり、男女共学になれば条件も異なり、これまでにはない新しい雰囲気が生まれることは間違いない。学校を取り巻く時代的な環境も、時代の要請も異なっているので、これまでと全く同じ雰囲気を保てというのは意味がないし、第一、無理である。品格のあるそれこそ新しい雰囲気を醸し出す生徒群を送り出して欲しいものである。それでも、上で述べた明治中学・高校の教育の特徴、良さを堅持すれば、表面上の雰囲気は変わっても、それらを超越した根本にある精神は、

旧制も、猿楽町での新制も、今度の西調布でも引き継がれ、一本筋の通った建学の精神として連なっているはずである。これが、変わらない真の校風である。

同窓会である総明会は、これまでの異なった2つの校風を持つ旧制と新制の卒業生が、仲良く手を取り合ってやって来た。それは、明治が好きであるという心と、一本筋の通った建学の精神が貫いていたからである。西調布に移転して異なった3つの校風が存在することになっても、この明治が好きであるという心と、一

本筋の通った建学の精神があれば、総明会は連綿として仲良く続けていくことが出来ることは、これまでの総明会の歴史が示している。この変わらない真の校風を維持する役割は、主として学校の現場の教師が担うことになるが、それを支援するのが総明会の役割である。総明会の各会員は、現役の生徒のために、母校のために何が出来るかという視点に立って、教師と協力をして連携を持ちつつ、それぞれの役割を果たして行こうではありませんか。

昭和40年卒

明 優 会

会長 大関清人

事務局

坪田達夫 TEL 03-3947-2431

昭和36年卒

総明会  
名誉会長  
明治大学教授

向殿政男

TEL 03-3701-1691

## 「ペンペン草」パートⅡ

昭和43年卒 紫讃会 健康 奉仕

高校時代の一番の思い出は、生徒会で発行する「過程」を発禁本にした事です。60年安保と70年安保の間で、学校も平穩無事の時代だったので、何の処分も受けずに、無事に卒業できました。大学から始まった学園紛争が、高校に波及した数年先だったら、もっと厳しい処分だったかかもしれません。時代が良かったのでしょうか。

何故発禁本になるような記事をかいたのか？と問われた

ら、絶対に処分をされない自信があったからです。そこそこ学業成績が良くて、ケンカ、ナンパはした事がなく、タバコはもつての他、神田のお好み焼屋も、麻雀荘も行った事がない、いたって健全な高校生は、処分されないだろうと思っていたからです。

あの頃の明高は、本当の成績優秀者は、他大学に進学する事が多く、成績優秀な生徒をできるだけ多く明治大学に推薦し、明高の評価を高め、明治大学全入を目指して、学校は頑張っていました。そのような時に「ペンペン草」は

ゲキリンに触れたのでしょう。管理職の先生一人だけがカリカリしていて、他の先生は見守っている。そんな感じでした。

文化祭で、二松学舎の生徒にケンカを売られ、一発で倒された明高生。

女の子と上野の旅館に行ったら、そこは修学旅行生の定宿で、うるさくて何もできなかった明高生。

正月特別料金を知らず、お金がたりなくなり、あわててお金を持って来させた明高生。晒しを卷いて登校していた明高生。

今ではみんな立派な経営者になりました。さすが明高生です。弁護士。公認会計士。一級建築士。歯医者。多士済済の同級生と酒を飲み、ゴルフができる。私は幸せです。ありがたい明治高校。感謝の気持ちで一杯です。

西調布に移転しても、明治高校の良さは、変わらないでしょう。英検二級は当たり前。ラグビー部、ゴルフ部が作られ、野球部が活躍する。夢がふくらみます。何と言っても、女子の後輩ができる。ますます夢がふくらみます。

インタビュー「大先輩に聞く」

# 旧制明治中学校の日々

インタビュー

昭和55年卒 紫魂会 笹川 榮一

6月20日、アカデミーコモン内のカフェ・パンセで昭和17年卒業の安藤氏、山口氏から旧制明治中学校について服部副会長、北島常務理事と共に話を伺いました。昭和17年卒業とは思えない若々しく凛としたお姿を拝見して、昔鍛えた方は違うなあという第一印象の中、話は和やかに進みました。

安藤氏、山口氏は共に戦争へと向かう時代に明中へ進学され、開戦時代を過ごされたのです。そこには私の想像を超えたような世界もあり、是

非当時の様子をお伝えしなければと感じました。戦前は麻布、開成、明治の各中学校から旧制一高を目指すのが男の憧れであり両氏も目標をそこに置いたそうです。当時の明中は現在の明中高と全く同じ猿楽町の敷地内にあり、男坂も全く同じ姿だったとのことでした。ただ、違いは現在の2号館の場所にパンなどを売る売店と、すぐ隣に1階兵器庫、2階剣道場、その上が園芸場という校舎があったそうです。兵器庫と聞いて驚いたのですが、当時はどの学校にもそのような場所があり、三八式歩兵銃が並べられていたそうです。当時としては特別な教育を目指していたらしく、学校長である鶴沢聰明校長が

「自由でありしかも質実剛健」を式典などの度に話され、大いに感銘を受けたそうです。また、戦時になり軍の命令で英語が敵性語とされ、周辺の学校では英語教育自体が姿を消す中、明中では英語教師がおり、きちんと英語教育を受けることができたそうです。また、先生方も大変熱心で、放課後自宅へ招かれたり、教室で学習指導を受けたりしたとのことでした。

クラブ活動は当時としても大変珍しいグライダー部があり、田無の飛行場へ練習に行かれたそうです。飛行場には2機の明中所有のグライダーがあり、1機はたまき号と名があったそうです。これは、歌手の三浦環氏<sup>たまき</sup>が寄贈された



左が山口氏、右が安藤氏

とのことでした。数人の仲間がロープを引っ張るなか、操縦桿を引きすぎて失速し真下に落ちることもあったとのこと。幸い怪我はなく済んだそうです。幸い胸のワクワクするような時間を過ごされていたそうです。また、当時は文化祭、運動会などではなくもっぱら剣道大会が中心で、剣道部が大変強かったそうです。写真は昭和17年3月17日に行われた「卒業記念全校剣道大会」での記念写真です。（優勝者は伊奈葉秀雄氏：故人、写真中に本人とあるのが伊奈葉氏。よく見ると現在と変わらぬ校章を校舎に見ることが出来ます。）その他に陸上競技部などがありました。クラブの数は少なかったそうです。明治

魂などのようなものはありませんか？とお聞きしたところ、意外にも特にそういう風潮はなかったとのこと。一高へ入り天下国家を論じるのが男のロマンであり、寮歌を歌うのが憧れだったようです。あまり明大へは進学しなかったようです。

両氏ともその後、学業半ばにして軍隊へ進まれ、復員した時には驚きを隠せなかったそうです。というのは、復員列車で帰京し東京駅の丸の内口に立つと、駅から見えたのは靖国神社の鳥居だけだったそうです。幸い明治大学、明治中学ともに戦災から免れ、再び学校へ戻り再会したときには皆軍服姿。それは、軍服以外に着るものがなかったか

らとのことでした。ポツポツ集りだした仲間も3分の1くらいがいなかったとのこと。身体が強く優秀な人間は特攻で戦死なさったらしいのです。その分生き残られた先輩方は頑張られたそうです。大学の講義はありましたが試験は行われずレポート提出で単位を修得されたとのことでした。さすが明中出身のご両氏、仲間のレポートもずいぶん書いて稼がれたとのことでした。紙面ではわずしかお伝えできませんでしたが、総明会諸兄も総会に是非参加され、ご両氏のお話を伺いこれからの後輩たちへ伝えて頂けたらと思います。



卒業記念全校剣道大会

これがほんとの英会話

中学「英会話」の授業

昭和54年卒 明誠会 岩田 茂

みなさんは、中学時代に「英会話」という授業があったのを覚えていますか？外国人の講師を招いて本場の英会話を体験するという付属校ならではの贅沢な授業でした。私が中学一年のときは、Mr. シャープというまさに English Gentleman という容姿の先生が教えてくれました。厳格な英国式の授業であったことを覚えています。

さて、翌2年になり英会話の先生が変わることになった。その先生の名前はMr. ドレイク。初授業の日に来て来たドレイクの容姿を見て驚いた！Gパンに赤の開襟シャツ、でかいリュックを背負ったバックパッカーのいでたちで登場。

髪の毛はのびし放題で、まさにアメリカンヒッピーを地獄くそのスタイルに驚愕した。彼が先生なの？だいじょうぶか？危なくないか？と誰もが思ったはずである。しかし、彼の経歴はハーバード大卒で、日本語の研究ではすごい実績があったらしく、実際に話しかけてみると穏やかな笑顔でやさしくフランクに話をしてくれた。

ヒッピーなどと恐ろしい存在じゃないやさしい先生となれば、それはそれで明治中学の生徒達、ひとなつこさではアメリカも日本も関係なしというところで自由奔放なアメリカンスタイルの授業が行われた。自由というか生徒が教室を歩きまわろうが大騒ぎしようがおかまいなしで、ドレイクと一部の生徒が英会話をしているだけで自習時間みた

いであつた。さらに血気盛んな中学生にばっちりの直輸入本の必修アイテムもありで、ハチャメチャではあったが楽しい授業であつた。

そうこうしているうちに1年はあつたという間に過ぎてしまいましたが、英会話の実践という意味ではすばらしい授業であつたと思います。ドレイクは私たちに何を教えたかったのかはわかりませんが、その時の教室には確かにアメリカが存在し、生きた英会話があつたと思います。自由に授業をやりすぎたおかげとは言いませんが、Mr. ドレイクは1年でいなくなつてしまいました。それにしても私たちに強烈な印象を残した先生でした。

（後日談）

昨年、彼の消息がとあるところから判明した。TVでニュースを見ていた私は思わず目を

疑った。「A女子大教授ストーリー容疑で逮捕！」「A女子大ドレイク教授は…」とアナウンスが聞こえてきたのだ！ドレイク？まさかあの？と思っていたその瞬間、ドレイクの顔写真がTV画面に映し出された。だいぶ老けてはいたがまさに彼。ドレイクはいまだに日本にいて女子大の教授になつていたのにも驚いたが、事件まで起こしてしまつて…と相変わらなかつてくれるなあと思ひました。

私が習つた恩師はいろんな方がおりましたがMr. ドレイクほど印象深い先生はいなかつたと思います。最近もBGMので見かけたし何かの縁を感じるので、どこかで会つて話をしたいと思ひます。それにしても彼は明治中学で教壇に立つていたことを覚えているのだろうか？

## 「さらば男子校」

## スキー部編

昭和55年卒 紫魂会 菅野 栄一

私達スキー部は、「冬」

「雪の上のスポーツ」の為、夏はただひたすら学校及び皇居周辺を走っていました。走ることに关しては、当時陸上部、サッカー部がなかったので、硬式野球部、テニス部、バスケット部、スキー部がマラソン大会の上位を占めていました。もちろんマラソン大会では、中学、高校それぞれ100番以内に入らなければ、「頭を坊主にしてこい」と先輩に言われましたから、皆必死で走りました。当然当時の

スキー部は、勉強が出来ないぶんマラソン大会で目立つ為に練習もハードになります。

学校から出発し、九段坂（急勾配）を駆け登り、靖国神社脇を通り、千鳥ヶ淵公園まで走り、ひと息ついて柔軟体操を行い、そこから毎日新聞社脇、共立女子校前を通り、学校まで戻ります。中学1年生から高校Ⅱ年生までいっしょに走りますから、私が中学1年の時はそれは筆舌につくしがたいほど遅く、何度も退部したいと思いました。

しかし、1年間がんばった成果かどうかわかりませんが、中学2年の時は18位と自分でも信じられない成績をだすこ

とができました。とにかくスキー部の練習は走るだけの、まるで修行のようなものでしたから、前にも述べたように、千鳥ヶ淵公園で体操をして戻るのであれば良いのですが、走ることがやたら好きな先輩が練習を仕切ることになれば、千鳥ヶ淵公園につくや、すぐに「このまま桜田門まで行くよ」という言葉をきくや憂うつな気分のまま走っていた記憶が思い起こされます。そんな私も高校Ⅱ年時には、皇居1周タイムレースを頻繁に行い、後輩達からは嫌な先輩の1人になっていました。現在社会人となり、時々仕事で九段下や皇居周辺に行くと、そ

の頃のことをなつかしく思い出し、機会があれば皇居を走ってみたいと最近考えています。

私にとってみれば、来年学校が調布に移転してしまうことは、走っていた頃の思い出への「さらば、神田駿河台、九段坂、千鳥ヶ淵公園、皇居」のような気がしてなりません。中学、高校を通して走ることが速くなりましたが、アルペンスキーの方は、あまり速く滑ることが出来なかったことが悔しい思い出です。

そしてここからは、雪上での華麗な？活躍について書きつづりたいと思います。

私達明治高校スキー部は、普段から先輩、OBの方々が

ら精神的、肉体的に鍛えられていたおかげで、東京都予選会、東京都大会に出場すると、スキーはすごく強い訳ではありませんでした。他の高校生が「ボンボン」と「お嬢ばかりだったので、我々の学校は「硬派」なイメージで通っていました。硬派といっても「喧嘩をする」ということではなく「蛮カラ」な雰囲気でした。ですから女子校と共学の高校生達とは、ほとんど交流がなく、うれしいやら、かなしいやらという複雑な気持ちでした。その分、男子校と共学の一部男子との交流は多く、大変楽しく過ごしていたことを覚えています。

忘れもしない私の思い出の1つで、東京都大会後楽園スキー場（現舞子後楽園スキー場）に高校1年で出場した時です。共学の男子生徒で、1人チャラチャラして目立つ人がいました。当然、いつも大会時につるんでいる他校の素行のよくない友人達は、私達明治高校スキー部に声を掛けでは、「しめてくださいよ」と囃したてます。1つ上のS氏は、「よし、まかしとけ」と返事よろしく私を引き連れ、ご挨拶に行きました。後はご想像の通り、しっかりご指導、ご鞭撻をさせていただきました。指導中の他校の悪ガキどもは、ニヤニヤ見ているとい

うシチュエーションでした。このように男くさいが、「カッコイイ」と思っていた時です。で、全くといいいほど、女子校からは相手にされず、さびしい思いをしていた当時のことは、今でも鮮明に覚えています。

来年から男女共学になることは、当時のことをふりかえると、うらやましい限りではあります。が、「明治らしさ」である「質実剛健」「独立自治」の精神を受け継いでくれると願っています。

最後にスキー部OBとして、今後の現役部員の活躍をお祈り致します。

## 明雪会

### スキー部OB会

会長	堀 眞壽(昭46年卒)
副会長	戸張 毅(昭47年卒)
兼評議員	津守 徹(昭51年卒)
副会長	若松弘昌(昭39年卒)
名誉会長	大出育男(昭31年卒)
相談役	佐藤健一(昭31年卒)
〃	山田和孝(昭36年卒)
〃	五十嵐公二(昭54年卒)
事務局	菅野栄一(昭55年卒)
〃	吉口市郎(昭55年卒)
〃	深谷 剣(昭62年卒)
がんばれスキー部 めざせ!! インターハイ連続出場 関東大会入賞	



## さらば男子校 学生服と明高と

昭和55年卒 紫魂会 河田 泰常

男子校なれば、当然のことながら女生徒はいない。明高には女教師さえもほとんどいなかった。文字どおり男だけの世界。中学は公立だったから、少ないながらも女子はいた。都立と明高のどちらにするかを考えた時に高校生活に多少なりとも色気を求めれば都立になるが、「明治」「男子校」の響きに憧れて明高にした。今でもその選択は正しかったと思う。

明高の制服は学生服である。中学は、男子は学生服、女子

はセーラー服であったから、明高が学生服であることに違和感はなかったし、むしろ当然と思っていた。黒サージの詰襟の学ランはブレザーなどに押され、当時も世間的には多数派でなかった。ださいの一言で片付けられることもあれば、汚れが目立つとか、乱暴に扱われて傷みやすいとかで敬遠する向きも多い。しかし、学生服は着る者をきりつとさせるし、何よりも男子学生が着る服として、「体裁よく中身が大事」という意味が込められていて、質実剛健を校風とする明高のイメージと強く結び付いていたように思

える。いわば学生服が明高の象徴の一つであったように感じられてならない。少なくとも当時の明高の先生方の顔ぶれや生徒に対する接し方には、(亡くなられた小田島先生のように口癖のごとく言う先生も、そうでない先生も)「お前ら、いい子ちゃんにはなるな」「小さくまとまるな」というメッセージが肌で感じられたから、その教えを受ける明高生が着る服は学生服しか考えられなかった。校風が制服を選ぶのか、制服が校風を育てるのかよく分からないが、新しい明高の制服は新しい明高生に何を感じさせていくだろうか。

毎日水素・カリカの

ライフセラピー

笹川 榮一

(昭和55年卒)

電話/FAX 03-3908-1445  
http://www.genki-nol.jp

昭和45年卒「獅子の会」

平沼 孝之

駒形 義人

〒111-0043 東京都台東区駒形 2-7-3

TEL.03-3841-7856

定休日 ・毎週 月曜日  
・第2・第4日曜日

さらば男子校 さらば坊主

昭和55年卒 紫魂会 内田 浩

昭和49年4月、明治中学校の入学式を数日後に控えて、私は意を決して床屋に向かいました。椅子に座ると「さ、さ、三分刈りにしてください。」と私が小声で伝えると、床屋のマスターが「にやり」と笑いい「いいんだね」と一言。マスターの右手に握られたバリカンが私の目の前をスルーして額のと真ん中からつむじに向けてストリートに刈り始めた。まさに逆モヒカン（人によって落武者）だ。私の12年

の人生で初坊主、当時の心境はかなりの抵抗がありました。そんな私に一撃で引導を渡したマスターの「にやり」は三十数年たった今でも脳裏に焼きついていきます。

これが明治と私の出会いでした。中学では野球部に入部し1年生の2学期より校則が変わり「坊主解除令」。まわりは徐々に髪が伸びるが、私は野球部だったので当然坊主（現在の中学野球部はわかりませんが）続行です。その頃には数ヶ月前の抵抗も無く、マイバリカンで「三分だ、一分だ、大会前だと五厘刈りだ」

と仲間同士で刈りあっていました。中学3年の夏の大会が終わると部活も終了。周りに2年遅れたが私達も「坊主解除」となった。刈らないから髪は伸びるが、髪質が硬い私の頭は柔道の井上康生選手のように伸びてしまい自然には曲がってくれない。自然に逆らうなら人工的に曲げるしかない。土曜日の午後、床屋の椅子に座り「アイパーでサイドバックにして下さい」。2年半ぶりの「さらば坊主」だった。月曜日に登校、中学野球部顧問で当時担任だった清水先生の授業で目が合い「にや

り」、そして「明日までに坊主」の一言。帰宅後マイバリカンで2日間のサイドバックとの涙の別れでした。私の中高6年間の思い出で「坊主」のキーワードは外せませんでした。「さらば男子校」というお題より、「さらば長髪」。

さて、賛否はありますが、来年度から男女共学が決定しています。今後益々の明治中学・明治高校のご活躍・ご発展を祈念いたします。

## さらば男子校 剣道部編

昭和55年卒 紫魂会 大橋 泰男

私は明治中学高校時代の6年間を剣道部で過ごしました。中学2年生の時に小西先生が着任され、監督も園部先輩に代わられて新体制になり、厳しい稽古に明け暮れる毎日となりました。特に思い出深いのは、やはり合宿と五大学付属剣道大会です。春夏合わせて10回の合宿に参加しましたが、初めての合宿地茅ヶ崎では、厳しい稽古の結果足の裏の皮が破れオキシドールと赤チンの世話になったものの、痛みで眠れぬ長い夜を送った

事が思い出されます。

また、高校Ⅲ年生の六日町での合宿は6泊7日プラス遠征という長いものでした。いつも通りの厳しい稽古で、内容もさることながら稽古時間の長いことといったら・・・朝6時起床そのまま稽古、7時30分ようやく朝食、9時から12時まで稽古、昼食後2時から6時まで稽古、夕食後8時からミーティングで10時消灯。民宿の部屋は1日目から最終日まで布団は1回も上がることはなく、稽古以外の時間は全員が死んだように寝ているという状態でした。今、振り返ってみると、二度とで

きない体験をさせていただいたと感謝いたしております。

夏合宿から戻るとすぐに五大学付属剣道大会が行われます。この大会は剣道部の先輩方が慶応、早稲田、立教、法政、明治大学の付属校と連絡を取り、年1回夏に開催されるものです。戦後から続くこの大会は、私が高校Ⅲ年の昭和54年当時8校の総当たり戦で順位を決定、5勝2敗で2位から4位まで同数、勝者数で残念ながら4位という成績でした。明治中学高校が共学となる平成20年度、この大会も第53回を迎えます。

昭和三九年卒

加藤一也税理士事務所

加 藤 一 也

東京都豊島区巢鴨 3-25-8  
第2扇屋ビル  
電 話 03-3910-8683

昭和四六年卒

(株)インタープランニング

ウインウインスタイル事業部

堀 眞壽

電 話 〇三五六〇〇一三三八  
FAX 〇三五六〇〇一五〇二二

嗚呼、さらば男子校

―男子校賛歌―

昭和55年卒 紫魂会 富山 裕明

青々と刈った

五厘の頭では

鏡を見ることも

ブラシを使うことも

シャンプーさえも

必要無い

見てくれなぞは

気にしない

「嗚呼、さらば男子校」

彼女がいなくて何が悪い

休日には悪友集めて

徹マンさ

眠気をこらえて

混一色作り

「嗚呼、さらば男子校」

一、二、三

次は「よん」か「し」か？

えい、まあまあよと答えて

チーターに殴られる

先生、ご指導

ありがとうございます

「嗚呼、さらば男子校」

対戦校は共学か

久々に聞く黄色い歓声

我ながらナイスプレーを

決めてみれば

「何、アノ6番、

気持ち悪い」

「嗚呼、さらば男子校」

「伝統だ」と急行で

北海道まで修学旅行

革靴にジャージで朝の

ランニング

同宿の飛行機で着いた

慶応の奴等が笑っている

「嗚呼、さらば男子校」

しゃべるなら

泣かせてみましょう

バスガイド

笑顔にて観光名所の

案内に

チーターの

「貴様は黙っている」

の一言

先生、いつでも誰にでも

教育ですな

「嗚呼、さらば男子校」

宿舎にてチーターを

マッサージ

「俺が寝たのを確認したら帰っ

てよし」

翌日「貴様、マッサージ

下手だな」

「今日はちゃんとやれよ。判っ

たな」

と、気合のピンタ

「嗚呼、さらば男子校」

「チワッ」「チワッ」

「チワッ」

「ちわっ」「ちわっ」

「ちわっ」

「ちわッ」

「チワアッ」

「嗚呼、さらば男子校」

## さらば男子校 僕の青春

昭和55年卒紫魂会 喜多 明

直木賞作家の高橋三千綱は、次のように述べている。「私の青春は自慰を覚えた時に始まり、長嶋茂雄が巨人軍を引退した年(昭和49年)に終わった」と。

私の場合はこうかもしれない。「小学校6年生から自慰ばかりしていて、第一志望の男女共学私立中学の受験に失敗し、昭和49年4月、明治大学付属明治中学に入学してしまった時に、私の青春が始まった」と。出だしから、何とも下品な文章になってしまった。ただ、昭和49年当時、青春時代前期

が始まるとされる12歳の私にとって、明治とのお付き合いは、不本意というか、挫折したというか、あまり気持ちのいいものではなかった。小学生時代、快楽に走りすぎたからだろうか？

ともあれ、私は、生徒会本部や、英語部に入部し、中間テスト・期末テストの直前になって、普段あまり仲良くしていなかった堅物の友人にノートをコピーさせてもらい、何とか及第点を取っていた、そういう日々を送っていたように記憶している。南麻布にある都立広尾図書館の食堂で、(ここは当時も今も、高校生のナンパのメッカであり、多

くの男子校生徒が、女子校生徒と出会う場所と言われている) A布高校や、W高等学院の生徒が、ナンパに成功しているのを見て、惨めになった事もある。

そんな私が、昭和55年4月、何とか明治大学法学部に入學し、様々な価値観を有する多くの人間と知り合うようになってから、私の中学、高校での六年間は、素晴らしいものであったという事が判った。受験勉強に疲れ、合理的計算的な考え方ができない一般学生と違い、明治高校出身者は、活き活きとしていた。明治大学校歌を三番までしっかり歌えることができたのは、我々

祝第43回総明会総会

## 猿楽会

昭和26年卒

会長 卯木敏夫

厨房のアメニティを創造する  
津守興業株式会社代表取締役 津守 徹  
(昭和51年卒明々会)〒332-0001  
埼玉県川口市朝日5-5-22  
TEL 048-222-6187  
FAX 048-222-8584  
E-mail: tsumori@luck.ocn.ne.jp

明治高校出身者しかいなかったし、損得感情抜きで真剣に友人と付き合おうという努力ができたのは、我々付属出身のみであった。

例えば、中学時代、一部の生徒に、えこひいきをしている教師と真剣に議論し、それに対しまだ子供の私に、その先生は、真剣に接してくれた。また、異性の目を気にせず6年間の若き日々を送れた事は、人間形成の上で、とても良かったと思う。受験勉強をしなくてよかったので、新潮文庫の100冊を読破することもできた。

そういう意味で、自分に自信が付いてからは、不思議と

人が集まり、試験前は私のノートのコピーが出回り、クラス的女性達が頭を下げてきた。彼女達と一人一人、デートしたことは、言うまでもない。

時代の流れと共に、明大明治は、調布に移転する。残念ではない、と言ったら嘘になる。ただ、時代がいくら流れても、明治大学の中核は、明治大学付属明治高等学校出身者が担うことは間違いないし、そうあるべきだと思う。

さらば男子校、しかし質実剛健・独立自治の精神は不滅に違いない。私の人格形成に大きな影響を与えてくれた明大明治での6年間、明治大学での4年間に感謝したい。

## エーゼット株式会社

服部 洋一(昭和41年卒)  
服部 雄二(昭和44年卒)  
大導寺和幸(昭和44年卒)

〒101-0025

千代田区神田佐久間町 4-22

TEL 03-3865-9577 FAX 03-3865-1162

昭和五十六年卒  
硬式野球部OB  
須藤司法書士事務所  
司法書士

須藤貢一

〒二三五〇〇四六  
江東区牡丹二一九一六一九一四  
TEL 〇三―三六四三―一六五〇

## 明治高校バレー部OB会

会長 山口 一磨(昭和27年卒)

監督 山中禎一郎(明治高校教諭)

## 前略 村田輝雄先生

昭和55年卒 紫魂会 山田健二

ご無沙汰しております。如何お過ごしでしょうか？

今年2月に3回忌と言う事で、昨年引き続き奥さんにお会いしましたが、僕等がハッパを掛けられそうなほど元気にしていらっしやいましたよ。今年私達も45歳になり、總明会の幹事学年を任される年となりました。本当に月日が経つのは早いもので、卒業してから30年弱、私達も世間的にも認められ、それなりに貫禄もつきました？が、昔話を話す様は高校時代と変わらず、

当時の頃にすぐ戻れるというのは、ある意味面白い事であり嬉しい事でもあります。これまでいくつかの先輩の同期会に出席させて頂きました。

話を聞く限りでは当時から先生は大変ユニークな存在？であったとお伺いいたしました。私達の年代がとても苦労したのは、やはり古文の授業で先生が、話された言葉を一字一句漏らさずノートに書き写すという作業ではなかったでしょう。何を隠そうこの私、冗談抜きで速記を習得するために講座を申し込み、さわりだけ勉強した過去があります。それほど忍耐、我慢、速書力？の要求される授業であったと

記憶しております。しかし、そんな授業でありながら、たまたま古文の一文で何やらウラ的とでも申しましょうか、別の解釈ができる文に遭遇し、その意味を面白おかしく説明された時の先生の少し恥ずかしそうに頬を赤らめていた顔、今でも鮮明に覚えています。

ただ先生、来年明高が移転と共に共学になる事、ご存知でした？いや、さすがに女子生徒が同じ教室にいたら、とてもあのような社会勉強にも繋がるお話、できないですよ（笑）。そこは先生の事。又別の言い方に変えてお話しるのでしょいか？一度先生が女子生徒に教える姿、これは

非見てみたいです。結構、かわいいうぽんこちゃん！なんて言われて人気ナンバー1になる氣もしますが、あ、失言。

先生確かお子さんがいらっしやらなかったと記憶しております。自分が今、子を持つ親になって初めて子供の心を理解する事の難しさを感じている今日この頃で、よく親とも話しておりましたが、先生程生徒の気持ち、心を理解して接してくれた人は、中々出会えなかったですし、そういった意味では本当に先生に感謝しております。

高Ⅲの進路を決める際でしたか「お前ら、頭の悪いのはどうしようもないのだから、

せめて素行だけは気を付けろ」とおっしゃいましたよね。僕はそうH・Rで言われた次の日の朝登校途中に、中野先生にズボンが太いとか学ランが少し長いとか制服の注意を受け、職員室に呼び出されました。名前を書かされる直前、先生に「いや、すみませんうちの生徒でして、よく言ってる聞かせますから」と襟首つかまれその後「ばかやろー、そんなつまらない事でつかまってるんじゃない、早く行けえ」と何のお咎め無しにして頂いたのですよね。小心者の僕はホット胸を撫で下ろしたものでありました。(汗)。ま、僕なんてツワモノの先輩方に比

べればほんと可愛いものでありまして先日の1、3回忌の時にも、色々な先輩のときでもない事をやらかした事等、ここでは書けませんけれども不問に付す、という先生の器の大きさとでも言いましょうか、やさしさとも言いましょうか、今の時代には無いおもらかさが先生にも又、明高にもあったように感じます。

時代が変わって今は何でも自由にできますし、個人が尊重される世の中になっていますが、いつの時代でも人を思いやる気持ち、世の為人の為なぞ時代錯誤も甚だしいと言われるかもしれないが、そういう人として忘れてはいけない普遍的な物ってありますよね。今回この総明会の幹事学年でたくさん先輩方に接する事ができてただ同じ明高出身というだけで、暖かいお声を掛けて頂いたり、指導して頂いたり、あらためて人の繋がりとこのものは大事でこれはお金では買えないとても大きな財産だと言う事を感じました。来年、移転、共学化と明高もひとつの転機を迎えようとしています。しかしなら変わることなく明高の1OBとして学校、先生から得たものを心にとめ「いでや東亜の一角に・・・」この心意気を胸に明治の名に恥じることなく勇往邁進する所存であります。



村田先生三回忌

ります。先生、本当にありがとうございました。お達者で！あまりお酒のみ過ぎないように。(笑)。



あぁ・・・ダジマ

昭和55年卒 紫魂会 岩田嘉津人

いつの間にか、人の親になり、その子供達も丁度私達が小田島先生にお世話になった年頃になっています。まだまだ若いつもりでおりましたが、子供の成長した分だけ年を取っているのです。年を取った分、様々な変化が見られるのも事実で、ニュース等で流れる少年犯罪や、いじめの問題、教師と生徒またその親との間の問題等々正直理解に苦しむ状況

にただただ首をひねる毎日。そんな時いつも思い出すのが「ダジマ」そう、小田島先生です。「ダジマがいっぱいあれば解決できる事があるので・・・。」と思うのは同年代共通の想いではないでしょうか。一言で言えば、「良い先生だった」これに尽きます。「ダジマ」の教え子がもっともっといけば、「ダジマ」の様な先生がもっともっといければ・・・。そんな事を思います。すごく単純な表現ですが、純粹にそう思うのです。

まだまだご活躍いただきかったです。病に屈するような「ダジマ」じゃなかったはずなのに。虫歯もペンチで抜いたくせに。

「あぁ・・・ダジマ」小田島先生。ちょっと早すぎましたね。今でもみんなが集まれば、あなたの話で昔に戻れます。雪の日に「完全装備」で校庭を走らせた事、今でも「ダジマがいればなあ」って思いながら、懐かしく思い出しています。

祝 第43回総明会 総会・懇親会

# 紫友会

昭和53年卒一同

昭和四三年卒  
竹川忠芳法律事務所  
弁護士

〒105-0003 港区西新橋一丁目一〇番三  
電話 虎ノ門法律ビル四〇〇八  
FAX 三五〇四一三三〇〇七八

竹川忠芳

明治大学付属明治高等学校  
昭和49年卒

**小林総合法律事務所**

弁護士 小林 信明

〒102-0083 東京都千代田区麹町1丁目6番9号  
DIK 麹町ビル3階・4階

T E L (03) 3238-8515 F A X (03) 3238-1231  
URL <http://www.law.gr.jp>

!!「いじめ問題」に  
特効薬あり!!

教員歴五十年の奥義秘伝を  
鞆鰯の急 今こそ伝授  
出張講演電話にてお問い合わせを。  
元大妻中野中高校教頭  
中央医療学園講師  
滝本派木邊流柔術師範  
昭和三十年卒 第六代生徒会長

應援団OB会副会長  
TEL 〇三三八一〇〇八〇〇  
携 帯 〇九〇一八〇八一六〇

田村正彦

昭和四八年卒  
四国商事株式会社

濱本義典

〒一六五〇二六  
中野区新井一丁目五十二  
FAX 電話 三三八六一五六一九四二  
三三八六一五六一九四二

(株)グローバル インシュアランス  
保険総合コンサルタント

代表取締役

**若松 弘 昌**

(昭和39年卒 明雪会名誉会長)

〒141-0031 品川区西五反田 2-9-7  
ドルミ五反田アンメゾン 1001 号  
T E L 03-3491-0900

昭和46年卒

(株)ハナワトランスポート

代表取締役社長

**埴 直樹**

中央区日本橋箱崎町12-2  
03-6667-5800

昭和39年卒業 (マンドリン部OB)  
ユアサ商事株式会社 代表取締役会長  
日本経団連評議員  
公認会計士

**谷 慈 義**

(会社)〒103-8570 東京都中央区日本橋大伝馬町 13-10  
T E L 03-3665-6667

# さらば駿河台



## 御茶ノ水界限探訪

昭和55年卒 紫魂会 新田 昌三

御茶ノ水界限探訪の起点は何といってもJR御茶ノ水駅だ。この駅のホームは、神田川の流れに沿った谷間にある。資料によると、「江戸時代の人は、鬱蒼と樹木の茂る崖地の風雅を楽しんだという。ホームから見上げて、対岸の東京医科歯科大学の建つ側が本郷台地、反対側が駿河台。この谷を境にして2つの台地が隔てられた形になっているが、もともとは地続きで、かつてこのあたりは神田山とよばれていた。徳川氏は、治水や江

戸城北部の防備、河川交通路の確保といった目的で本郷台地を掘削した。それが今の神田川である。そもそも駿河台という地名は、家康亡き後、駿府（駿河の国）詰めの旗本が大勢この地に移り住んだことによる。以来、明治維新まで、駿河台は番町や麴町と並ぶ旗本の屋敷地であった。」ちなみに、御茶ノ水の名の由来は、かつてこの辺りにあった高林寺という禅寺の庭から湧き出る水を、時の將軍徳川秀忠公に差し上げたところ、大変気に入る毎日お茶を飲むときの水として使用するようになったことによる。

JR御茶ノ水駅には2つの出口がある。御茶ノ水橋口と聖橋口だ。聖橋口を出て、聖橋を渡る。聖橋は神田川にかかる美しいアーチ型のコンクリート橋だ。すぐ右手にこんもりと緑に覆われた一帯が目に入る。湯島聖堂だ。石段を下っていくと、左に大きな建物が見えてくる。杏壇門（きやうだんもん）をくぐり境内に入ると、駅近辺の雑踏がウソのようにひっそりとしている。正面が漆黒の大成殿。屋根のみが青銅色で、その四隅には、にらみを利かせた鬼龍子が鎮座し、屋根の両サイドには、潮を吹いている鯢（しやち）が飾られている。厳粛で



神田明神

荘重な建物だ。大成殿を出て、なお階段を下っていくと、孔子の銅像がある。さらに斯文会館の前を進み、もう一つの出口にたどり着く。

資料によると、「湯島聖堂は、1630年、林羅山が建てた私塾が始まり。1690年5代将軍綱吉によって孔子廟が湯島に移され、その周りの建物と合わせて聖堂と総称した。その後幕府直轄の昌平坂学問所として拡張、強化され、諸藩の秀才が集まるようになった。江戸幕府を支えた思想的基盤である「儒教」の総本山的存在。江戸時代唯一の国立大学であり、現在の東

京大学へと続いていた。当時の建物は関東大震災で焼失。現在の聖堂は1935年の再建。」

湯島聖堂の裏、通りを渡ると巨大な鳥居が目に入る。神田明神の名で親しまれている神田神社である。こちらは湯島聖堂の黒とは対照的に朱色の世界。730年の創建で1300年近い歴史を持つ。天慶の乱で敗れた平将門公が祀られている。江戸時代から「明神様」と呼ばれ、縁結びの神様として親しまれてきた。2年に1度5月に神田明神祭があり、毎回多くの観光客で賑わう。

駅の聖橋口に戻り、今度は本郷通りを下って行こう。程なく右手にニコライ堂が目に見え、飛び込んでくる。筆者が訪れたときは、大勢の人が沿道に列を作ってニコライ堂のスケッチをしていた。確かに印象深い建物だ。資料によると、「ニコライ堂は、正式名日本ハリストス正教会東京復活大聖堂。1891年、鹿鳴館を設計した建築家ジョサイア・コンドルの設計で完成。現在の建物は関東大震災後に修復された。ビザンチン様式の聖堂は、高さ35mのドームと尖塔の鐘楼を備え、その荘厳な鐘の音は1日3回、駿河台に



ニコライ堂

響く。」このニコライ堂（東京復活大聖堂）と湯島聖堂を結ぶ橋という意味で、「聖橋」と命名された。

ニコライ堂の脇道を抜けて、日大病院の前を通り、明大通りに出る。筆者が明高生の頃、水で濡れた廊下ですっころび、頭を打って日大病院にお世話になったことがある。軽い脳震盪で記憶が一時飛んだ。大事には至らなかったが、大学病院で精密検査を受けた。それにしても御茶ノ水界限には病院が多い。ちょっと思いつくだけでも、日大病院のほか、杏雲堂病院、三楽病院、浜田病院、東京医科歯科大附属病

院、順天堂医院などなど。

賑やかな明大通り沿いには、なぜか楽器店が多い。シモクラ、イシバシ、クロサワなどの看板が目につく。きっとこのあたりは学生街で、若者であふれているからであろう。実際、明治大学、日本大学、東京医科歯科大学といった大学のほか、駿台予備学校、アテネフランセ、文化学院といった予備校、専門学校が密集し、いつも若者で混雑している。明大通り沿いには、音楽フリーク御用達のギターショップや中古楽器店が集中し、エレキギターやキーボード、ドラムからタンバリン、オカリナと

いった民族楽器まで揃っている。コントラバス、バイオリン、チェロの専門店もある。中古のレコードや楽譜探しもできる。もう一つ、この通り

沿いには、日大カザルスホールがある。これはコンサートホールで、日本初の室内楽専用ホールとして主婦の友社によって開設されたが、現在は日本大学が所有・管理するホールとなっている。「カザルス」の名は、20世紀を代表するチェロ奏者のひとりであるパブロ・カザルスの名にちなんでいる。明高のマンドリン部もここで定期演奏会を開いている。

明大通りを駿河台下まで下



神田神保町

ると、対面に三省堂書店がある。筆者が明高生の頃、土曜の午後によくここに立ち寄ったものだ。今は昔と違って、建て替えられてきれいになっているが、その当時は相当古ぼけていた。筆者はここで高校の参考書のほか大学の専門書を物色していた。この三省堂から右に伸びる並びが書店街の中心部。「新刊書を扱う書店はもとより、古書が集まる世界一の古本屋街でもある。140もの書店が、500mにわたり軒を連ねる。驚くほど安い文庫本から希少本まであらゆる本が揃い、本好きにはたまらない散策ルートだ。

年に1度、10月末に開催される古本まつりは多くの人で賑わう。」多くの古本屋は通りの南側に北を向いて並んでいる。日差しによる本の劣化を避ける為だ。

三省堂から錦華公園に向かう。途中左側に食堂街があり、とんかつ、てんぷら、天丼のいもやや、中華料理屋、ビストロなどが集まっている。錦華公園の裏には、昔明大の師弟食堂があり、筆者はこの食堂街とともに、よく土曜の午後などに訪れた。生まれて初めて師弟食堂でカツカレーを食べ、感動したのを覚えている。さらに道を進むと、明高

の前に出る。男坂を登ると、とちの木通りである。この通りを水道橋方向に行くと、左手に特徴あるピンク色の建物がある。90年以上の歴史を持つフランス語の名門語学学校「アテネ・フランセ」だ。フランス語だけでなく、多言語の言語学校として、ベルリッツと比肩する存在である。とちの木通りを反対方向に進むと、もう一つの名門専門学校「文化学院」がある。創立80年を超える芸術学校である。校舎は現在立て替え中であり、水道橋仮校舎に移転している。

以上簡単ではあるが、御茶ノ水界限を散策してみた。



アテネ・フランセ

# 学校行事今昔物語

昭和55年卒 紫魂会 新田 昌三

明中・高の学校行事はわりと多彩だ。ここで過去から現在までを簡単に振り返ってみたい。

明中・高の三大行事といえは体育祭・文化祭・音楽祭であるが、その中で最も古くから連綿と行われてきたのが体育祭と文化祭である。記録によるとすでに昭和28年頃には行われている。その後一旦従来体育祭・文化祭として日を別にして行ってきたものを学校祭として同時に挙行するよ

うにした。記録によると、

「文化祭は去年まで学芸会が主で展覧会はこの一、二年やっていなかったの、今年は学芸会を省いて展覧会をやることになった。この二日間にあたる展覧会とそのあとの運動会との中間をつなぐ企てとして、バレー・ソフトボールの校内大会を催し、一方講堂では映画と音楽の会を催して、名実ともに文化と体育の学校祭とした。ちなみに運動会は八幡山で行われた。」その後また体育祭と文化祭は別々に行われるようになり、今日に至っている。

体育祭についていえば、明

大の和泉校舎グラウンドなどで行われたこともあるが、大半はつつじヶ丘で行われている。昭和30年頃の出し物は、1500m走、タバコを吸いながらのスモークンレース、俵を担いでの重量リレー、力走、棒引き、三輪車レースなどである。昭和40年代には棒倒しが人気の種目となった。体育祭は四季別対抗の形が多く、この形の宿命なのか春組の優勝が圧倒的に多い。また野外で行われるため、天候に左右されやすく、中止となることもたびたびあった。昭和47年

の体育祭は創立60周年記念体育祭として、屋内の東京都体育館において開催され、多くの父兄の参加を得た。出し物は、エール交換、タイヤ転がし、障害物競走、棒引き、棒倒し、ブラバン大行進、高校五千mマラソン、騎馬戦、四季別リレーなどで、珍しく冬組が優勝した。昭和52年には日没と同時に行われていた伝統の火消還セレモニーが廃止され、伝統の火は閉会式の時に消された。「日が沈んであたりが暗くなり、その暗がりの中の聖火がだんだん消えていき、その火を見つめながら



校歌を歌う感動を知る役員の  
中には、残念がる声も聞かれ  
た。」また平成5年には初の  
試みとして体育祭が中高分離  
で行われた。実際、10月2日  
に高校体育祭、10月3日に中  
学体育祭が行われ、この形式  
が最近まで定着している。

文化祭も体育祭と並んで昭  
和20年代より行われているが、  
初期の頃は学芸会とか展示会  
といった形で行われた。学芸  
会で林家三平師匠が名司会を  
務めたこともあった。昭和39  
年頃の文化祭ではフォークダ  
ンスが盛大に行われたとある。  
そのほかの出し物はのど自慢

大会、仮装行列、ゼスチャー、  
弁論大会などで昔懐かしい感  
じがする。昭和42年の文化祭  
はマンネリズムの打破と統一  
テーマ「明治百年」を掲げて、  
初めて紫紺祭と命名して行わ  
れた。その後今日までその名  
は使われている。昭和51年の  
紫紺祭では初めて各賞が設け  
られ、最優秀展示団体に対し  
て、紫紺賞、最も面白い露店  
に対して、明神賞、お客さん  
のたくさん入った展示場に対  
して、大入り満員賞を設け、  
紫紺賞には生演奏のニューミュー  
ジック、明神賞にはバナナの  
叩き売り、大入り満員賞には

マンドリン部が選ばれた。

音楽祭は形式的には体育祭・  
文化祭と並んで三大事事となっ  
ているが、実質的には体育祭  
の激しさ、文化祭の華やかさ  
と比べて幾分見劣りするもの  
の、クラシック音楽から狂言  
に及ぶまで毎年幅広い音楽性  
の追求に基づいてバラエティ  
に富んで催される。いわば体  
育祭と文化祭のつなぎ的效果  
をもった行事である。その始  
まりははっきりしないが、昭  
和47年には場所を九段から日  
本青年館ホールに移して行わ  
れ、マンドリン部と吹奏楽班  
が熱演したとある。

この頃の音楽祭の課題は明中・  
高生の参加が非常に少ないこ  
とであった。その後音楽祭と  
は別に、吹奏楽班とマンドリ  
ン部の定期演奏会が開かれる  
ようになり、昭和61年には芸  
術祭と衣替えをして、最近ま  
で続いている。

学校行事の中でも最も思い  
出深いものの一つが修学旅行  
であろう。修学旅行の歴史も  
古く、昭和20年代より行われ  
ている。昭和30年頃には中3  
が東北旅行（飯坂温泉、平泉、  
松島など）に、高Ⅲが奈良・  
京都旅行に行っている。その  
後、中3が奈良・京都、高Ⅱ

が関西（奈良、京都、南紀、伊勢など）または瀬戸内（小豆島、四国など）に行くようになり、昭和39年頃に高Ⅱで九州旅行（熊本・長崎）が登場し、中3が奈良・京都、高Ⅱが九州というパターンがしばらく定着する。昭和45年には初めて高Ⅱで北海道旅行が登場し、定着する。筆者が中3（昭和51年）の時は、瀬戸内の旅に行き、播州赤穂や岡山の後楽園、小豆島、四国の屋島・金刀比羅宮などを訪れた。高Ⅱ（昭和53年）の時は、南北北海道に行き、函館、大沼公園、洞爺湖、登別温泉、

札幌などを訪れた。札幌で食べたラーメンの味が忘れられず、以後札幌に行く度必ずラーメン横丁には行くようにしている。その後昭和58年頃、高Ⅲで九州旅行が復活し、ごく最近まで続いている。平成16年にはついに高Ⅲで沖縄旅行に行っている。修学旅行に行かない学年はどうしているかというと、たいてい関東近郊の遠足に行っている。名称は林間学校、移動教室、校外学習とさまざまだが、実質的には遠足と変わるまい。筆者の調べた限りでは、明中・高で海外に修学旅行に行った形跡は

ない。最遠は沖縄である。他の高校では海外に行くケースはほとんど増えていくようであるから、明中・高でもそのうち必ず海外修学旅行が登場するであろう。

ホームルーム委員経験者などに懐かしいのは、リーダー年度に初めて開催された。中学・高校各H・R委員および各班クラブの責任者が招集され、飯能市で幹部教育が行われた。以後定例化され、翌年からは山中湖畔や南志賀学寮で行われるようになった。昭和52年にはキャンプ中のOB

の下級生に対する指導に問題があったとしてリーダーシップが中止となり、代わりに話し合いの場としてのリーダー連絡会が設置された。それが昭和60年頃にリーダー研修会として衣替えし、泊り込みの研修会として復活している。

体育祭以外にもスポーツイベントはいくつかある。その代表はマラソン大会である。昭和43年に初めて校内マラソン大会が開催され、狭山湖・多摩湖コースで行われた。当日はマラソン日和の晴天に恵まれた。翌年も同様で、中学生は8.5km、高校生は13.6kmを走っ

た。以後マラソン大会は狭山湖・多摩湖近辺で行われ、最近まで続いている。マラソン大会というと、筆者には苦しかった思い出しかなく、とりあえず完走することが精一杯であったが、走り終わった後、カナダドライのトラックからジュースが一人二本配られたのが、大変印象に残っている。球技大会も盛んに行われてきた。昭和32年頃には、ソフトボール大会やバレーボール大会がすでに行われている。以後、M先生の影響のせいか高校ではバレーボール大会、中学ではソフトボール大会ま

たはドッジボール大会が毎年のように開かれている。特にバレーボール大会はクラス対抗の場合や運動部・文化部などのクラブ対抗の場合があり、一年に二回開かれることもあった。クラス対抗では高Ⅱが優勝することも多く、高Ⅲが歯が立たないといった場面もみられた。ちなみに昭和44年のクラブ対抗では、文化部地理研、運動部バレー部、愛好会ボイスカウトが優勝している。昭和45年10月25日志賀高原の山田牧場の一角に南志賀学寮が落成し、以後ここで林間学校やスキー教室が開かれる

ようになった。特に年末に一般向けスキー教室、年明けに中2のスキー学校が催されるというパターンが定着し、筆者も中2のとき生まれて初めてスキーを体験した。

そのほかの行事としては、他校を招いての高校座談会・中学座談会や最近になって中学で弁論大会が行われるようになった。

以上、明中・高のこれまでの学校行事を概観してみた。

練馬 高野台

## ネーチャーズフォレスト株式会社

代表取締役社長 横山茂樹 (昭和52年卒 男子校根性組)

本店 東京都練馬区高野台1丁目7番3号NFプラザⅢ-210

TEL 03-3996-0612 FAX 03-3996-0630

<http://www.neritaka.net/> E-mail:nfsy@opal.famille.ne.jp

みんなが、参加して創る、地域活性化のための町づくりを目指して頑張っています。  
ネーチャーズフォレストの名前の由来は、人々の心を癒す森をイメージして名付けられました。

# 調布校舎移転計画

昭和55年卒紫魂会 大迫 好孝

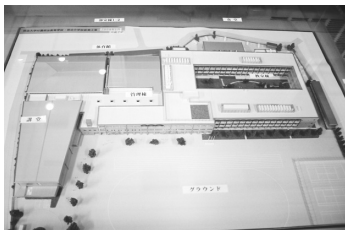
ずいぶんと昔の話になってしまいが、明治中学に入學する際に親から「御茶ノ水で揉まれて来い！」といわれたことを思い出す。当時の坊主頭のボクはその意味を深く考えなかったが、今考えてみればいろいろな意味で「揉まれた」ことは間違いない。親が言った言葉の意味を今となっては聞くことはできないが、その当時の御茶ノ水には明治大学の他にも日大、中大などの大学をはじめ、文化学院やアテネフランセ、日仏会館などが建ち並び、「日本のカルチェラタン」と呼ばれたこの学生街は特別なものだったのかもしれない。当時の明治大学の記念館は歴史の重みを感じさ

せ、独特の文字で書かれた学生運動の名残の看板と共に、ちよっと近寄りがたい雰囲気を持っていた。その後、工事中であった2号館、4号館の改築も済み、坊主頭からも開放され、あつという間に中学・高校の6年間を過ごしたが、その環境で過ごしたことが、出合うことのできた諸先生方、諸先輩方との思い出は、「生田校舎」で大学生活を送ったボクにとっては、よけいに忘れられない貴重なものとなっている。ボク達はこの校舎で過ごせて幸せだったのだ。その御茶ノ水・駿河台からいよいよ来年調布へ移転する。調布には「男坂」も「マロニエ通り」も無い。安くておいしい定食屋街もない。(特に、出されたものをきれい頂くことを教えてくれた「いもや」

もない・・・)しかし、これからは「駿河台」は卒業生一人一人の記憶の中で大切に残されていくだろう。



僕らの胃袋を満たしてくれた数々の店たち・・・



新校舎完成予定模型

いよいよ調布へ

来年4月『明治』が大きく生まれ変わろうとしている。共学になるということは、ボク達にとっては信じられない位の大改革である。それに加えて、調布への移転。環境が一変することは確かである。では、その調布とはどのような場所なのだろうか。

生徒の通学には、京王線調布駅・JR中央線三鷹駅との間にスクールバスの運行が検討されているが、路線バスの停留所もすぐ近くにある。調布駅までは道が混んでなければ10分程度で着くことができる。実際に現地まで行ってみると、想像していたよりもずっと近く、通学しやすく感じられた。一方、調布校地への最寄駅である京王線西調布駅は、神保町からだとして、都営新宿線（京王線に乗り継ぎ、約40分

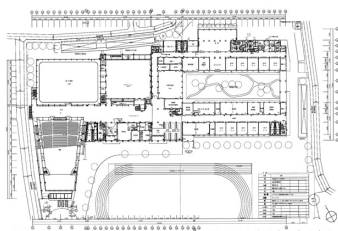
（40円）。平日は1時間に6本の各駅停車しか停まらない。駅前広場も無い小さな駅である。

改札を出ると一方通行の3m程の狭い道路に踏切の遮断機が開くのを待つ車の列と歩行者が渾然となっている。新生・明治に行くには、その一方通行を逆行するように北に向かって進む。ちょっと寂しげな商店街ではあるが、「ちゃんぽん」の看板を発見。この店は使えそうである。しばらく歩くと、商店街も途絶え、国道20号線を横断することになる。その上には中央自動車道が走り、右を見れば調布ICがすぐ近くに見える。そこからは先は、道路の中も広くなり、歩道もしっかり整備されているので安全だ。右手には住宅地、左手には味の素スタジアムを含めた公園緑地が広がっ

ており、ある意味環境はよいと思われる。

西調布駅から徒歩17～18分程度。住宅地の路地を右に入るといきなり広大な敷地に工事用クレーンが2基そびえている。敷地の周囲の大部分は戸建て住宅が4m程度の狭い道路を挟んで建ち並んでおり、住宅街の中にすっぽりはまり込んでいる感じだ。これから課題としては近隣住民の十分な理解を得ることが必要となるだろう。

さて、実際の施設はどのようなになっているのだろうか。まず、配置計画から見よう。広大な敷地の北側に新しい校舎は配置され、南側に新しい校舎のサッカー場が取れるほどの広さを有している。日常のクラブ活動を、主に中学、陸



1階 平面図



工事中の新校舎

上競技部、サッカー部、硬式  
及び軟式テニス部が（テニス  
コート5面！）利用すること  
になる。また、今後の生徒か  
らの要望により、ソフトボー  
ル部（女子）などが創部され  
ば、多様な利用形態ができそ  
うだ。しかし、この広い校庭  
を『完全装備』で走ることを  
想像しただけでゾロツとし  
ませんか？。（雪の日もつら  
そうだ。）

次に、校舎に目を向けてみ  
ると、管理棟を中心に東側に  
教室棟、西側に講堂棟とい  
うレイアウトになっている。

まず、教室棟から説明しよ  
う。中庭を中心に回廊形式の  
3階建ての建物で、1、2階  
に中学生教室、2、3階に高  
校生教室が配置されている。

中学生は35人クラス。1学  
年で525人。また、高校生は40

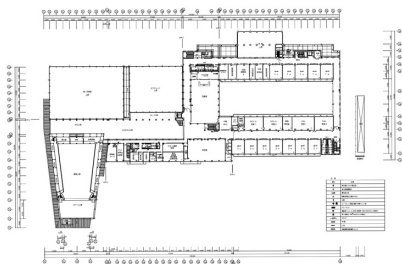
人クラス。1学年7クラスで  
280人。計840人。中学高校合  
せて最大1365人の生徒が  
学べることとなる。もちろん  
全教室冷暖房完備（！）で授  
業用の大型プラズマディスプ  
レイが装備されている。内装  
も教室にはフローリングを用  
いてできる限り自然素材のも  
のを採用している。廊下の幅  
も南側教室棟は特別教室との  
中廊下のため6m、北側教室  
棟は片廊下で4mもあり、現  
校舎と比べると3倍以上の広  
さを確保している。

特別教室は1階南棟に美術  
室、技術室、家庭科調理室  
（最近必修になっているそ  
うだ）、北棟には書道教室を  
配置、2階南棟にはCALL  
教室（昔のLL教室）と、コン  
ピューター教室が2教室ずつ  
配置され、3階南棟には物理、  
化学、生物の各実験室と共に

和室があり、茶道や華道の実  
習に利用できるようになって  
いる。その他に各学年1室の  
上級グレードの視聴覚教育対  
応の予備教室が計6室あり、  
うち1室はガラス黒板を利用  
して、パソコン等の画面を使っ  
た授業ができる設備を備えて  
いる。

学年単位では、330名が収容  
できる多目的教室、そして、  
管理棟をはさんで西側に全校  
生徒を収容できる講堂を備え  
ている。

体育館はサブアリーナと2  
棟あり、男女別に利用したり  
雨天時の利用効率を上げる狙  
いがある。クラブ活動として  
は、体育館でバスケットボー  
ル、バレーボールを行い、サ  
ブアリーナでバドミントン、  
卓球などが行われる予定であ  
る。その他サブアリーナの1  
階に柔道場・剣道場も整備さ



2階 平面図

れている。

また、教室棟2・3階には2層吹き抜けで明るく広くなった図書館（現図書館の2倍のボリューム！）があり隣の備教室と有機的に利用できるレイアウトとなっている。

約300名収容の1、2階吹き抜けの明るく開放的な食堂は、教室棟の1階北棟に配置され、中庭に面した約60名が利用できるカフェテリアと、連続して配置されている。中庭もテニスコート2面分の広さがあり、気候のよい中間期には中庭のベンチを利用する生徒も多く観られることだろう。

また、教室棟の2階に設けられた放送室・スタジオについて、ぜひとも宝の持ち腐れにならないよう、有効に利用してもらいたいものである。

硬式野球部のグラウンドは新校舎からも近い明治大学府

中グラウンド内の「内海島岡ボールパーク」内の専用野球場となり来年以降の活躍に期待が高まる。

クラブ活動も、このような施設の充実と共学化によってこれまでになく女子ソフトボール部、チアリーダー部などの体育系から、合唱部、演劇部などの文科系まで新しいクラブが続々誕生し、活躍が期待される。

以上が、調布新校舎の概略である。限られた紙面での紹介であるので、語りつくせない部分がたくさんあるが、今現在工事中である新校舎が完成した際には、ぜひ見に行きたいと思う。そこには私たちの新しい「母校・明治」があるのだから。

この充実した施設ができたことで、

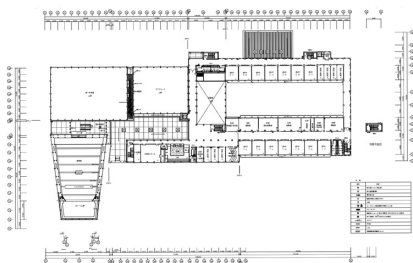
**STUDY**（学習環境の整備）、

**SPACE**（ゆとりの生活空間）、**SPORTS**（スポーツ施設の充実）という『3つのS』が実現されることはすばらしいことである。あえて言わせていただければ「仏創って魂入れず」ではないが、これまで駿河台で諸先輩の方々から受け継がれてきた明治の「魂」を失わずに新生・明治を発展させていたいただきたいと切に願うばかりである。

最後に一番気になっていたことを確認してみた。校歌はどうなるのですか？

「白雲なびく駿河台・・・」と、校歌は今後も変わらないとのことである。

取材協力  
明治大学管財部施設課  
明治高等学校・中学校事務室  
お忙しい中ご協力頂きありがとうございました。



3階 平面図

## 《校地移転記念寄贈レリーフ》

明中・高の西調布移転を記念して、総明会より明中・高に対し、レリーフが寄贈されることになりました。以下は作者の岡島先生による説明です。

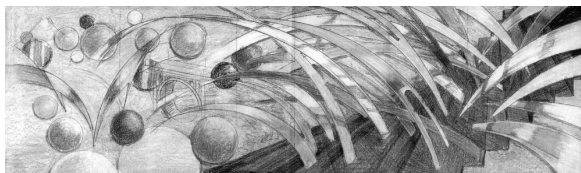
### 表現イメージタイトル「男坂」

伝統ある明治イメージとして、重厚感・純粹性・柔らかいがこれだけは譲れないと言い切る頑固さを感じ、私が選んだ素材は銅です。これは人類が初めて道具に使った金属であり、1000年土の中・海底にあっても朽ちる事の無い金属であり、今の時代でも使われ続けて居ります。比重は約8.9と重い純金属であり、又柔軟性・延展性に富み、これぞ明治に最適な素材であると確信しました。

駿河台から西調布へ移転、又男女共学となり学園の雰囲気も明るく華やいだものに成ると思います。その様な事を念頭に置き考えたのは金属の持っている色、それを最大限効果の有る表現方法で今までには無い作品に仕上げたいと、銅・真鍮・ステンレスを用い、又それらの金属を塗装でなく他の鉱物を用い、色の幅を持たせることにしました。

明治と言えば「男坂」、この男坂を作品の主題に据え、銅板をベースに本緑青で仕上げ、左に富士山と聖橋を浮き彫り（レリーフ表現）、右側には銅を硫化で燻（いぶ）して赤黒く力強い動きを持たせ、その男坂をステップにして飛び立ち、世界で躍進している先輩達の力と自信を、銅・真鍮・ステンレスを用い明確な弓状のカタチで表現し、又左側に有る球状の物は子供達の無限の可能性と抱きかかえきれない位大きな夢をイメージし、それらも銅・真鍮・ステンレスを用い、又一部に鉱物を使い変化を持たせることで作品全体に華やかさを表現させる事が出来ると思います。これにより男女共学の生徒達にも受け入れ易くなると思います。

岡島延峰



レリーフのイメージ（寸法5m×1.5m）



# 祝 第43回 総明会総会 バスケットボール部OB会

OB会会長 三田幹男(S43年卒)

ルーズボールクラブ

(バスケット部OB会主催のゴルフコンペの名称です。)

11月23日開催

バスケット部OB総会は、平成20年2月ころ  
開催予定です。

# 祝 第43回 総明会総会 明治大学付属明治高等学校應援團OB会

会 長 小田川玉城 (昭和25年卒)

評議員 佐藤 欣生 (昭和28年卒)

祝 第43回総明会総会

昭和45年卒

# 獅子の会



代表取締役 **高田信一**  
明治高校 昭和34年卒

損害保険・生命保険

**株式会社タカダ保険事務所**



〒132-0031 江戸川区松島 4-27-13  
電話 03-3654-9181 FAX 03-3655-2300

<http://www.takahoken.co.jp> [tio@takahoken.co.jp](mailto:tio@takahoken.co.jp)



代表取締役

**伊達忠伸**

株式会社 丸光商店

〒170-0003

東京都豊島区駒込2-9-7

TEL 03-3949-7688

FAX 03-3915-2114

URL: <http://www.akari.co.jp>

E-mail: [marumitsu@akari.jp](mailto:marumitsu@akari.jp)

足立区中央本町四―二十四―八

**小田島保男**

昭和四十三年卒 紫讃会

昭和四十八年卒波の会

株式会社 山口商店

代表取締役 **山 口 隆**

大田区大森北一―十七―二  
〇三―三七六一―四八三八

昭和五十四年卒「明誠会」  
和光アールイーアイ(株)  
代表取締役 **熊澤正幸**  
千代田区飯田橋四―一―十一六洲社ビル  
電話 〇三―三五二―〇七五三  
FAX 〇三―三五二―〇七五三



〒300-0204 茨城県かすみがうら市下軽部 881  
TEL 029-896-1011 FAX 029-896-0950  
URL <http://www.orix.co.jp/ogm/>  
e-mail: [dejima@ogmj.jp](mailto:dejima@ogmj.jp)

S63年度卒業 箱田恒雄  
コンペの相談承ります。

昭和51年卒(明々会)

有限会社 ニューハウス  
(ホテル大阪屋グループ)

代表取締役 **上野雅宏**

〒111-0021

東京都台東区日本堤1-2-3

TEL 03-3872-6518

〒一六―〇〇三  
荒川区南千住二―三四―四  
電話 (三六〇) 二六八三〇

**重盛元也**

明治高校PTA顧問  
明治白駿会

登録商標 ゼイタク煎餅  
東京名物 重盛の人形焼

# 同期会・クラブOB会報告



# 明高三七会だより

昭和37年卒三七会 福島 啓充

昭和37年3月卒業のメンバーは「明高三七会」という同窓会を組織しています。本年5月26日、4年ぶりで三七会を開催しました。前回は我々が還暦を迎えたことを記念して開きましたが、今回は明高が調布に移転し、来年には猿楽町校舎が取り壊されるということで、我々の学舎の見納めに、校舎の見学をさせていただき、その後山の上ホテルで懇親会を持ちました。

当日午後3時30分に正門前で集合ということにしましたが、学校のご配慮により社会科の教室を使わせてもらい、

教室に集まりました。そこで参加者の出席をとりましたが、○組○○君と呼び、ハイと挙手をして答えるという場面があり、さすがに代返はありませんでした。皆懐かしく高校時代を思い出した次第です。

国語、漢文を教えていた栗原圭介先生も参加してくださいました。栗原先生は90歳になれましたが矍鑠とされ、この春にも論文を発表されているそうです。我々の目標であると改めて思いました。栗原先生のご健勝と益々のご活躍をお祈り申し上げます。そのあと校舎見学をさせていただきました。そのうえ現役の応援団が団旗を出してくれ、団旗とともに男坂で記念撮影

をしました。

それから山の上ホテルのレストランで懇親会を開きました。そこには新校長の小林正三郎先生、総明会から関谷専務理事、本年の幹事学年紫魂会の渡辺代表らもお出でいただきご挨拶をいただきました。

小林校長先生は我々の先輩であり、後輩の指導をよろしくお願い申し上げます。また現役の応援団の諸君が元氣いっぱい初々しく校歌・応援歌の指揮を執ってくれて、我々も久しぶりに声高らかに校歌・応援歌を歌い、目頭がジーンとききました。明高の卒業生でよかったとしみじみと思った次第です。

今回の参加者は66名でした。

次回は3年後に開催する予定です。その時は調布の新校舎の見学をさせていただければと思っています。



明治大学付属明治高等学校「三七会」  
学んだ校舎さようなら 「男坂」にて

2007.05.26

## 駿河台半世紀の思い出

昭和38年二年に一会食 三浦 昭生

「白雲なびく駿河台」いよいよ駿河台から去る日が迫ってきました。昭和32年明治中学校入学、昭和35年明治高校入学、「質実剛健」「勇往邁進」の校風のもとに学び、そして昭和38年卒業の同期会「二年に一会」です。慣れ親しんだ「男坂」に別れを告げ、2008年（平成20年）から調布の新校舎に移転、男女共学化で母校も新しい meiji のスタートを切ります。

還暦も過ぎ、半世紀になるわれわれ同期生はますます元気に過ごしています。中・高6年間にたとえ一日でも机を

共にした友は「二年に一会」会員なのです。卒業年の翌昭和39年に第1回総会・懇親会を開いてから、会長の三浦昭生、高橋正佑幹事長、関戸淳一事務局長、知野誠一監事を中心に常任幹事諸君によって会名のとおり2年に1回一度も欠かすことなく開催しております。

昨年9月2日（土）の第22回「二年に一会」総会・懇親会は姿卓氏が代表幹事を務め、野球部で活躍し現在プロ野球北海道日本ハムファイターズのシニアディレクター山田正雄氏のご子息が経営する東京・青山のカジュアルイタリアンフレンチレストラン tana で開催されました。48名の

会員、同伴者5名に加え松本理三郎先生、後藤朋智先生、村野圭吾先生の恩師3名と小西哲男副校長をお迎えし、また昨年の総明会幹事学年の3名が参加しました。

総会は当番幹事の渡辺昭宏氏の司会で進められ、三浦会長があいさつ、高橋幹事長の活動報告、関戸事務局長による会計報告、知野監事から会計監査の報告があり、滞りなく終了しました。

懇親会に移り、司会は姿氏にバトンタッチ、小西副校長より調布への校舎移転の説明が事細かに行われ、総明会幹事学年から総明会の案内とお願いのあと、後藤先生、松本先生、村野先生からお言葉を



頂戴し、村野先生の音頭で乾杯、なごやかに歓談のひとつきを通しました。会も佳境にはいり、同級生の国友昭氏が日航パイロット時代の経験談、山田正雄氏が野球部時代の苦労談からプロの世界の話をじっくり語ったあと、幹事の平賀孝男氏による声量ある詩吟が披露されました。そして、参加者全員の紹介があったあと最後は恒例の校歌斉唱、卒業時応援団長だった大塚武史氏のリードで全員肩を組んで力強く三番までを熱唱、会旗の前で記念撮影をしてお開き、2年後の再会を誓いました。

河台校舎で何か記念に残るイベントをやれないものか、と計画しております。近く実現することと思います。

以上同期会の報告をまとめさせていただきます。最後に本年度の総明会総会のご成功を祈念するとともに、昭和38年卒「二年に一会」の連絡先を誌面をお借りして掲載させていただきます。

〒135-0005  
東京都江東区高橋14-20  
二年に一会事務局  
関戸 淳一  
TEL 03-3631-2008  
FAX 03-3631-2548  
(文責・服部紀夫)

昭和42年卒

結城法律事務所

辯護士 結城 康郎

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目6番4号  
第11森ビル10階  
電話 03(3506)1151(代表)  
FAX 03(3506)1152  
携帯 090(3104)1840  
E-mail: yuuki-lo@bj9.so-net.ne.jp  
http://www.yuki-law.com

昭和三十八年卒同期会

二年に一会

会長 三浦 昭生

中華ファミリーレストラン



孫悟空

細田店 葛飾区細田1-15-6  
Tel. (03) 3650-0059

葛飾区議会議員

新村秀男 (昭和42年卒)

## さらば男子校

くさらなる飛躍へく

昭和46年卒明潮会清水 稔

平成20年2月2日明治中学入学試験合格者発表掲示板には、なんと女子の名前が列挙されていた。目を凝らして掲示板を見るとやっと男子の名があった。入試において女子は、コツコツときちんと勉強してくる。男子はそんな女の子に負けてしまうことを分かりつつも目を疑った。

この夢が真実にならないことを祈りつつ、会報への投稿文を書き始めることにします。母校明治高校は白雲なびく駿河台を離れ、さらなる発展の地へとまもなく移転し、男女

共学校にバージョンアップすると聞いています。

合格者は、成績順で採るのでしょうか。男女平等に合格させて欲しいものです。近年女性の社会進出には、目覚しいものがあり、能力は高いものがあります。仕事ぶりにおいても、随所に繊細さが、窺えます。真面目です。しかし、男性には、女性のそれを上回る自力本願体質があり、何といても優れた「鈍感力」を持っています。打たれ強い鈍感力です。

「世に出て恥かく明高生」と毎日言われ続けたお陰か、独立自治・不動の明治精神が社会に出ても逆に大いに役立っている諸兄がたくさんおられ

と思います。振り返って考えるに、これまでの明治には、各地から色々なタイプの男達が集まって来て、それぞれが型に嵌らず、自由な発想で学生生活を過ごしてきた氣がします。学校もそれを尊重していたと思います。私はいまだに、親心に似た明治精神に感謝しています。多くの先生、先輩、同期、そして後輩に。「男子校 明治 ここに在り」新天地でも一層の発展を祈っております。

尚、昨年11月、水上温泉にて3年ぶりに、明潮会総会が開催されました。楽しかったです。明治はいいなあ。事務局長 金子氏に感謝。



# 四七四七同志酔会

昭和47年卒 廣野 宏士

1999年に、帝國ホテルでの総会でホスト学年を務めました、昭和47年3月卒業の四七四七同志酔会です。

我々が、ホスト学年を務めてから、早や八年の月日が経過したわけで、正に『駟しの隙げきを過ぐるが如し』の感があります。我々は、ホスト学年担当当年に向けて『四十歳を過ぎからの人間関係の再構築』と『同級生同志、お互いがお互いの人生にエールを贈り合おう』を合言葉に掲げて96年頃より準備に入り、邁進しま

した。担当年を終えた今でも、このイズムを忘れずに同級生の交流は続いております。

同窓会は、思い立った時に不定期に開催しています。

本年の総会は、母校が猿楽町に所在する最後の年の総会となります。長い歴史の中で、大きな区切りであり、また、ひとつのスタート、という諸々の意味合いの総会となることでしょう。

幹事学年の皆さん、これまでの準備、お疲れさまでした。盛大な総会となることを祈っております。



祝 第43回 総明会 総会・懇親会

## 四七四七同志酔会

昭和47年卒一同

昭和五四年卒「明誠会」  
(株)畑清商店

代表取締役

吉田正穂

板橋区新河岸二一八一  
電話 〇三―三九三九―二五  
FAX 〇三―三九七九―五二七



## 翼明会

昭和49年卒 大前 実之

21世紀の幕開けとなった2001年にホスト幹事を担当致しました、49年卒の翼明会です。早いものでそれから6年が経過しようとしております。東京ドームホテルでの華やかな光景が昨日のことのように想い出されます。

我々の代の特徴としては、同期に栗野氏、則氏と母校の先生が2名居る事です。みんな50才を過ぎ、2年ぶりに同期会を開きました。2月10日(土)に同期の仁茂田氏の経営する麴町の居酒屋「さかな

や」にて行われ、総勢30名が集まりました。今回初めてこの同期会に参加した輩もおり、大変盛り上がった会となりました。アルコールが入るにつれ、気が付いてみれば、高校時代の顔に戻って、元気のいいおじさん達の集団になっておりました。2年に1回という事で次回はもっと多くの同輩を集め、健康でまた美味しいお酒が飲めるようにと誓って散会となりました。



東京都台東区浅草四丁目三五番  
電話 (三七八四) 二二九〇番  
URL <http://www.usel.com>

ふぐ 和牛しゃぶしゃぶ

昭和四四年卒  
弁護士

田中等

丸の内南法律事務所  
〒一〇〇一〇〇五  
千代田区丸の内二一七区  
丸の内仲通りビル七二七区  
TEL 〇三三三二一五一五  
FAX 〇三三三二一六〇四四



マーク入Goods/Tシャツ  
エンブレム アカデミックガウン

PEP・MATES Inc.

Goods企画・製作 明治大学オフィシャルグッズ

明大サポート指定・MS会幹事会社

ペップ・メイツ株式会社

代表取締役 大前実之  
(昭和49年卒)

# 祝 第43回総明会総会 翼明会 (よくめいかい)

昭和49年卒業生同期会

会長 竹澤 啓

同期の方は連絡先確認の為、会長の竹澤までメールを  
ください。takezawa@r2.dion.ne.jp

## 明紫会

昭和50年卒 窪寺 弘匡

今年の同期会は、6月9日、新宿の『晚白柚（ばんぺいゆ）』で、なんと昼間の2時半から夕方6時半まで4時間の予定で行った。『晚白柚』は、同期の高橋氏が勤めているタカノフルーツパラーの姉妹店なので、4時までではアフタヌーンティーパーティーと銘打って奥様方にも楽しんでもらおうと、フルーツやデザート盛り沢山のティーパーティーから始まった。当時担任の一人であられた後藤先生にお

越し頂き、その後総会、そして懇親会とおおいに盛り上がり、楽しい一時を過ごした。

明紫会では、昨年から、沿線別に地域を東西南北の4つに分け、順番に地元優先の開催場所で総会・懇親会を行う事にしており、今年は西地区が担当だったので、特に今まで来られなかった西の仲間に声をかけ、出席者48名中、6名の初参加者に恵まれた。しかも何名かは準備から出て来てくれた。楽しいことに手を抜かない西地区の仲間は、8ページものオールカラーの会報を作り、4時間もの長

同期会を計画し、打合せや下見・準備を7回も行い、毎回、当然のようにその後は飲み会となり、当日の前には充分過ぎるくらい親睦が深まっていた。

懇親会の後、参加者のほとんどが『晚白柚』の斜向いのカラオケボックスへ流れ込み、歌も唄わず大騒ぎ、カラオケで唄ったのは、それから2時間後、全員で肩を組んで、明大校歌と紫紺の歌だけである。やっぱり我々の体の中には紫紺の血が流れてるんだなあ！その後はそれぞれに、新宿や中野のネオン街（言い方が



オヤジかなあ！へ消えて行った。もちろん、来年も会おうと約束をして・・・！

西地区の仲間はその月の内に、やはり同期の亀井氏の店、沼袋の『割烹魚ぎく』で飲み会！いやいや反省会を行った。50歳を超え、身体もガタが出始めて来た年齢でもある。中学や高校の頃は思ってもいなかったが、仲間と今もこんな付き合い方が出来るのも総明会幹事学年制度のおかげである。これからも人生楽しく陽気に生きて行ける明治の仲間にかんぱい！

祝 第43回 総明会 総会・懇親会

昭和51年卒

明々会

ホームページ：<http://meimeikai.s14.xrea.com/>

株式会社  
横河建築設計事務所

常務取締役 経営管理室長

井出 好亮

(昭和40年卒明優会)

〒153-0064

東京都目黒区下目黒2-20-28

TEL 03-3492-7441(代)

FAX 03-3490-9545

E-mail: y-ide@yae.co.jp

<http://www.yae.co.jp>

祝 第43回 総明会 総会

昭和46年卒

明潮会

昭和49年卒

坂政合板株式会社  
マーカム株式会社

代表取締役

坂上 真啓

〒424-0045

静岡市清水区東大曲町8-36

TEL 0543-66-1155

建物の新築・リフォーム・耐震診断

ワイシー企画 株式会社

代表取締役 藁谷 豊

(昭和44年卒)

〒359-0007 埼玉県所沢市北岩岡263-1

TEL (04)2990-5111 FAX (04)2990-5005

E-mail: yc-kikaku@ba.wakwak.com

URL <http://www.yc.jp.com/>

# 卒業30周年同期会開かれる

昭和52年卒 男子校根性組 小嶋 眞作

今回は卒業30周年を記念して恩師の後藤先生・山田先生（※）を囲んでの会を企画し、大学会館で6月2日に開催しました。

今回は4年半ぶりにマレーシアから日本に帰ってきた樽見氏や、元銀行投資部長で、現在はヘッジファンドマネージャーとして活躍している露久保氏の2名が初参加して、同期27名が集まり、それに明紫会から3名、明誠会4名、紫魂会2名の皆様が来られ、総勢37名が集まり盛会の大入り袋でした。

男子校根性組となってから3回目を迎えて、ほぼいつもの顔ぶれに安堵と嬉しさが重なり、つつい目頭が熱くなりました。恩師のご挨拶・同期の活躍している近況報告を聞き、とても励まされ「オイラもつひと踏ん張りするぞ!」とついつい呑み過ぎちゃった!とても感謝する次第です。本当にみんなありがとう。

また総会では有田ゴルフ委員長からの爽快な提案「今年の新たな企画としてささやかでも同期ゴルフ会を開催する。」ことで決定し、審議事項の①年会費をちょっぴり値上げすること、②同期会則の役員に広報委員長を設け、香取氏が就任すること（現役員も本人

も何を広報するのか?解らない!）、③来年からの同期会日程を5月第4土曜日に開催することを満場一致にて承認いただきました♪いや、同期会の日はいつもベロベロに酔いつぶれてしまいますが、何か遊び心をクスグル会となりました。サンキューです。

※恩師山田先生は「翌日の予定を考え、前々から御茶ノ水のホテルを予約していましたが、学校行事の遠足の時から体調を崩し、病院で肺炎と診断されたので、折角皆と会えるのを楽しみにしていました、またの機会に参加するから宜しく伝えてください。」とのことで欠席となりました。  
↑残念!



## 「誠」に集う男坂伝承組

昭和54年卒 明誠会 千崎 修

本年度幹事学年の紫魂会から同期会についての報告文を依頼されたのですが昨年の実行委員時に書き過ぎてしまつて何も出てきません（もともとボキャ貧）。はしかにかかったように記事・原稿を書きまくった会報委員長のT、同期も原稿書きまくって何度も読んで泣きました。会の模様を書いたところで面白くもなんと無いと思うので、昨年度幹事学年『明誠会』のプロフィールを紹介します。

我々、昭和54年卒（便宜上）は257人の名簿中、私の知る範囲で物故4名、音信不通が約70名。すなわち約180名の同期には連絡が取れるという事。

メーリングリスト登録者も約100名。自慢ではないが先輩方、後輩たちよりアタマ数だけは揃っており、どこかの政党よりまとまりのある会だと自負しております。ゴルフ以外にも熱心なゴルフ組、寄席を求めて西東へご存知落語班、そして、何かにつけ呑み呑み？板橋朝まで酒組。幹事学年が終わってからそれぞれ地域で、また後輩指導と称して集っては即宴会と楽しくやっています。

明誠会は40歳を迎える2年前に第1回同期会を開き、総会も無く任期も決めず会長を抜擢。やんちゃ者グループが中心に存在している為か、同期会では唯一であろう恩師招待が無い。なにしろ印象深いハードパンチャー恩師はみんな空の上。ご存じ松枝大先生が教師人生で学年主任として最後に受け持った学年であり、名伯楽の心血注いだ最高傑作と呼ばれています（呼ばれていません）。現役時にチータから「三無主義世代」と揶揄されながらも「チェッ、うるせー」とクールにつぶやいて熱中する事に恥ずかしさを感じていた世代です。しかし三つ子の魂、百までとはよく言ったもので10代に植えつけられた熱き教育は40歳を過ぎてからも深層心理に残っており、いやさらに磨きがかかり昨年は「幹事学年だー」という実行委員たちの雄叫びに70名近くがセルリアンタワーに駆けつけ、受付、誘導など紫紺の法被に袖を通し手伝ってくれたものでした。正直、こういった同期でよかったと感激し、近年、歳をとった私の涙腺は

緩むばかりでした。  
さあ、7月14日は半年ぶりに見る顔、毎週のように見ている顔、世紀を越えて見る顔がどれだけ集まるのか楽しみです。家族にも見せないような同期の喜怒哀楽を見る事が我々の至高の楽しみです。



2006年12月3日 於セルリアンタワー

# 明球会 (硬式野球部OB会)

昭和51年卒明球会会長 一泉二郎

今回のテーマは「さらば男子校、さらなる飛躍へ」と総明会会報委員の方から聞いております。仰る通り2008年4月に母校は西調布に移転致しますが、既に硬式野球部のグラウンドは2007年11月に東府中に移転しております。校舎とグラウンドが至近距離になります。そして、男女共学となり男子の数が減ります。過去の実績・思い出を大切にしつつ、常に未来に向かって現状以上の発展と変化を求め

る明球会は、ピンチをチャンスに変えるべく、校舎移転を前向きに歓迎致しております。

明球会は、この度、大幅に人事を変更致しました。高校・大学そして野球部各関係者との連携を尚一層強化し、組織の強化を図り、強い明治高校硬式野球部を実現させるための支援を更に強化させて頂きたいと存じます。そして、明球会も幅広い世代からの様々なご協力・ご支援・ご指導を頂きますようお願い申し上げます。

今年の秋の大会からの当番校(ブロック大会を運営する

24校のなかの1校)に指定され、硬式野球部が置かれている環境が激しく変化しております。学校の対応も変化して行く中で、明球会も明治高校並びに明治大学野球部と連携を取り、明治高校野球部員がプレーし易く、勝ちに拘ることの出来易い環境創りに全力を傾けていく所存でございます。

「運動部の活躍が感動を呼び、人を引きつけ、学校の特色が出る。スポーツを通じて厳しい鍛錬・努力をすることが生徒の人格形成にも役立つはず」「単に結果を求めるの

## 硬式野球部OB会 明球会

会長 一泉二郎 (昭51卒)

総明会・評議員 世古俊之 (S50卒)

ホームページ URL <http://o-meiji.com/>

事務局連絡 E-mail: [mail@o-meiji.com](mailto:mail@o-meiji.com)

ではなく、何かを目指すプロセスを大事にして、人間教育に力を入れたい」（小林正三郎校長）という志は明球会が強く望んでいる姿でもあり、明治高校野球部復活を目指し、学校との強い絆の下、野球部を支援して参りたいと存じます。

明治高校野球部の過去の甲子園出場を記念し、また甲子園出場者の栄誉を称えまして、「甲子園出場の記念碑」を府中のグラウンド内に設立することと致しました。寄付金のご協力は既にお願いを始めましたが、具体的な動きはこれからです。この事業は、世代を越えたワールドワイドな明球会の方々のご参加・ご支援を求めるためのものでもございます。

明球会はOB間は勿論ですが、高校・大学野球部並びに野球部関係者とも尚一層の関係強化を図りたいと思っております。皆様のご支援・ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

最後になりますが、総明会会員の皆様そして今回の幹事学年「紫魂会」の方々のご健勝を心よりご祈念申し上げます。

喫茶  
ペガサス  
後藤義明 S45  
フェンシング部

Clarion  
後藤勇三 S50  
硬式野球部

昭和五〇年卒「明紫会」  
(有)太陽精器製作所

代表取締役 世古俊之

大田区大森西七二一十  
電話 〇三三七六一九八八

昭和五十一年卒 明々会  
総合不動産  
株式会社 エヌエフ・ヴィレッジ

取締役 事業推進室 室長

吉田 博

〒177-0033 練馬区高野台一三三  
TEL 〇三三五九一〇〇二  
FAX 〇三三五九一〇〇五

## 株式会社 シティ・ハウジング

代表取締役 佐藤 仁  
(昭和39年卒)

本社 東京都大田区西糀谷 4-28-14  
TEL 03-3742-7177  
FAX 03-5705-8097

E-mail: jinsato@cityhousing.co.jp  
糀谷本店・蒲田東口店・大森店・大井町店・雪が谷店

# 見心会 (剣道部OB会)

昭和52年卒 羽田 郁雄

剣道は、年齢や性別に関係なくでき、また、勝敗のみを競うスポーツとも一線を画しており、全日本剣道連盟では「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」と剣道の最終目的を理念として明確に定めている。我々剣道部OBは、師弟同行という剣道独特の修業方法により、現役の中高中生に剣道の稽古を通じて様々なことを指導している。現在、鈴木幸男監督（剣道教士七段、昭和44年卒）を筆頭

に現役の助監督7名という強力な体制にて、不定期だが熱心な稽古をつけに出向いている。以前と違って、生徒の活力が弱くなっていることを不満に思いつつも、後輩のために少しでも力になればとの思いで時間を作っている。このことは、それぞれのOBが、自分達が現役の時に受けた指導に対する感謝と、母校明治に対する思いを恩返しという形で後輩に注いでいるものと思っている。

さて、剣道部OB会（正式名称は「見心会」という。）は、戦後、剣道部が復活して

から現在まで途切れることなく52年間続いている。現在は、矢光善美会長（剣道教士七段、昭和39年卒）のもと、会員相互の親睦と剣道部の発展に寄与することを目的として、年1回の総会と月1回の稽古会並びに現役の試合の応援などをおこなっている。

今年の2月には、OB同士の親交を深めるため、茨城県筑波山においてOB合宿を行った。約10年ぶりの開催ということで、前警視庁剣道教士八段の近先生をお迎えし、地元つくば地区剣道連盟の方々と合同練習を行うという、本

格的なものとなった。宿泊は、筑波山の中腹にある老舗「江戸屋旅館」にて、上は昭和34年卒の加藤佳一氏から下は昭和61年卒の嶋田茂之氏まで、総勢16名で、幅広い年代が集結した。夜の第二道場（宴会）では昔話で大いに盛り上がり、特に昭和30年代の先輩の、生徒だけで行った合宿のすさまじい話などは、いつ聞いても驚かされる。来年以降もこの合宿を続けようと、皆で誓い合い筑波山を後にした。今後は、若いOBや今まで余り参加していなかったOBも気軽に参加できるようにしてい



たい。

いよいよ来年度から校舎が西調布に移転するため、30年余りお世話になった現格技室も今年度で終了となる。思い起こせば、私が高一の時、「見心道場」が壊され、現格技室の建設に入った。新しい道場ができるまでの1年間は、神田警察や千代田体育館を借りての稽古だったので、重い防具を担いでの移動はとてむたいへんだった。とくに、そのときの中1（今回の総明会の幹事学年）は体もまだできていなくて、稽古前にはくたくたになっていたのではない

だろうか。また、日々道場を借りるために奔走した山本氏（昭和51年卒 故人）もかなりご苦労されたと聞いた。そんな1年間を乗り越え、新しく現道場ができた時の感激は今も忘れることはできない。何よりも、授業が終わったらすぐ稽古ができることの喜びは、何にも勝るものはないと思う。思い出がたくさん詰まっている道場と別れることは寂しいが、新しい西調布の道場でも、また別の歴史が築かれていくことだろう。「見心会」では、校舎がかわっても現役の生徒のために、できる限り

の力を注ぎつづけ、絆を深めていきたいと思う。継続は力なり！

2年前、「見心会」の当時会長だった戸谷好夫氏（昭和32年卒）の年代から現体制に引き継がれた。充実した活動を順調に行っているが、一方では、次世代を担う人材を早急に育てなくてはならない時期にきている。この文を読んだ若いOBの諸君、現役後輩のために是非力を貸していた

昭和三十七年卒  
柚木法律事務所

弁護士 柚木 司

〒一〇一〇〇四一  
千代田区神田須田町一三十一河合ビル八〇一  
FTEL 〇三三二九四六二九一  
FAX 〇三三二九四六二九〇

# 見 心 会

明治高校剣道部OB会

美一男雄 善健幸郁  
光島木田 矢中鈴羽  
長監督計 会副監会

# 紫紺クラブ(生徒会本部OB会)

昭和52年卒 大西静士郎

生徒会本部OB会は名称を『紫紺クラブ』とし、昭和40年前後に卒業されたOBの方々を中心に活動しています。

OB会総会(懇親会)は二年に一度開催していて、来年が開催年になります。

実は、生徒会本部のOB会はこれまで十分に組織されずにきていました。ようやく数年前に、前述しました昭和40年前後に卒業されたOBの方々を中心に結成されました。そのため、組織としてはまだ

これからという状況です。

なるべく早く他の班・部OB会のような形を整えたいと思っていますが、名簿等の資料が少ないため、生徒会本部に所属していたOB全員に連絡できずにいます。この文章をお読みになった方は事務局までご連絡くださいますようお願いします。

(携帯電話 090・253・0189)

祝 第四三回総明会総会・懇親会

## 図書班OB会

連絡先 平田 幸彦

〇三―三五八九―〇六八七  
大西静士郎  
〇九〇―二五三三―〇一八九

祝 第43回総明会 総会・懇親会

株式会社プレイアベニュー

取扱商品：パーティグッズ  
パーティコスチュームほか

取締役

**大西静士郎**

(昭和52年卒)

男子校根性組

〒272-0135

千葉県市川市日之出5-7

TEL 047-395-4315

FAX 047-307-3636

http://www.playave.com

## 生徒会本部紫紺クラブ

生徒会本部OB会

会長 三浦 昭生

(昭和三八年卒)  
事務局長 長谷川 裕

(昭和四三年卒)  
TEL 五六一六・四三九五

株式会社 岡 仁

代表取締役

**岡 本 雅 仁**

(昭和51年卒 明々会)

電話 03-3451-3671

昭和52年卒  
パートナーズ総合事務所

司法書士  
**菅原 誠**

台東区東上野 3-35-5  
TEL 03-3835-8041  
FAX 03-3835-8042  
e-mail ZVC 00312@nifty.ne.jp

## 放送班OB会

昭和57年卒 宮田 健

放送班OB会のうち、昭和53年から昭和61年卒業生を中心とした有志で、恩師 故田村晴彦先生の命日（5月17日）にあわせ毎年5月の第3土曜日に先生の眠る港区三田の長久寺へ墓参りと懇親会を行っています。これらのメンバーで、田村会を結成し毎年の恒例行事として、引き続き墓参りを実施しています。

今年の第3土曜は、折しも総明会HPに掲載された、駿

河台校舎の見学会の日でした。

早速、見学を申込むこととし、男坂上に昭和53年から58年卒業の4名が集合しました。久しぶりの校舎に入ると、懐かしい風景が次々に現れ、「ここで個人面談をやった」などと、ん十年前の記憶がよみがえります。でも、良く見ると近代化(!?)もされており、教室には空調が設置され、教室の机の数も少なくなっています。あの、人口密度の高い教室で夏の暑さに耐えた記憶は、古い時代のものと同認識させられました。我々放送班の教室

でもあった視聴覚準備室にも、特別に入れて頂きました。残念ながらがらすっかり変わり果てた様子に、ため息をつきながら学校を後にしました。雨が落ち始めた中、三田長久寺に到着すると、いつものように掃除をし、それぞれの思いを先生に報告しました。

いよいよ、今年度で駿河台を去る母校を見学できたのは良い思い出となりました。調布へ移転しても明高は明高。新しい歴史が刻まれていくことでしょう。願わくば、放送班の活躍が、明治高校HPに

掲載される事を期待して筆を置きます。

さて、放送班のOB会では、インターネットの掲示板や、メーリングリストを活用して情報交換をしています。掲示板は、<http://8630.teacup.com/mbc/bbs> です。またメーリングリスト参加希望の方は <http://groups.yahoo.co.jp/group/tamurakai/> の「グループへの参加(自動処理)」から手続きをしていただくとともに、[tamurakai-owner@yahoo.co.jp](mailto:tamurakai-owner@yahoo.co.jp) へご連絡をお願いします。

## 明物会（物理部OB会）

昭和51年卒明物会員 井家上哲史

明治高校物理部OB会「明物会」は、今春明高を卒業したばかりの若手から初代部長（昭和44年卒）OBまで幅広い層が集う組織です。文化部でOB会組織が続いている部は少ないのではないのでしょうか。年間を通しての主な活動は、現役物理部部員を交えたスポーツ大会・懇親会・総会、夏の物理部合宿への参加・指導、紫紺祭訪問、新人歓迎会などです。近年、物理部への入部者が少ないようですが、

盛り返したいところです。

今年は、5月に新人歓迎会を行いました。新人は1名ですが、これまでの部長の経験を生かして今後の明物会での活躍が期待できます。写真は、そのときの集合写真です。

Webページを新たに立ち上げました。URLは <http://www2.atpages.jp/meibutsu/> です。明中高時代に物理部に在籍した皆さん、是非ご連絡をお願いします、またこの記事をお読みの皆さんWebページにお立ち寄り下さい。連絡 email:meibutsukai@gmail.com



祝 第43回 総明会総会  
明治高校物理部OB会

# 明物会

e-mail: [meibutsukai@gmail.com](mailto:meibutsukai@gmail.com)  
<http://www2.atpages.jp/meibutsu/>

台東区上野 3-17-8  
田沼第一ビル4F

弁護士 小坂嘉幸

TEL 03-3831-6032  
FAX 03-3831-6037

## 白銀の世界を舞台に

昭和54年卒明雪会 五十嵐公一

記録を更新中です。

今年で創部56年目を迎えるスキー部は、初代主将田村暢郎氏の東京都選手権優勝から多くの選手を東京都代表として輩出してきました。インター

ハイ出場は、アルペン種目で17大会、延べ31名、クロスカントリー種目では24大会、延べ60名を数えます。全国に東京に明大明治スキー部あり!!の名声を轟かせています。又、クロスカントリー種目では、現在インターハイ連続出場の

OB会である明雪会は、現在会員数400名程になり、毎年11月に総会、親睦会、年2回のゴルフコンペ、スキー旅行等を実施し、会員相互の親睦を深めると共に、現役部員への援助を行っています。

思い起こせば、現役時代、故水落八郎先生より、クロスカントリー競技をやれ!!と有無を言わず(笑)、合宿の初日15キロ、スキーで走らされたのが、昨日のように思います。当時、スキー部内は、アルペン競技が主流で、クロスカントリー競技は、私を含

めて2名しか居ませんでした。

スキーは上から下へ滑るものだ!!と生きていた私は、N氏より下から上へ登るものだと教えられ、猛吹雪の中よく走ったものでした。競技は個人15キロ、リレー10キロ×4名の40キロで争われます。正式に

スキー部内にクロスカントリーチームが出来たのは、この年で、N氏には技術面、精神面共に指導頂きましたが、突然の退部、退学でたった1名に、そこで同期K君、後輩2名を誘い、チームを再建!!4名で各大会上位を目指し、雪を求めて、新潟、長野、群馬と練

習をしに、旅したものでした。

スキー競技の中では、どちらかと言うと地味な感じのクロスカントリー競技ですが、辛い分、連帯感があり、卒業し二十数年経過した今でも、共に走った仲間とは、親睦を深めています。

スキー部の中でも、こんな競技もあるんだ!!と知って頂きたく、筆をとりました。又、今年も現役部員がインターハイ連続出場を更新してくれることを願って、がんばれ、明大明治スキー部、最後の男だけの白銀の世界で!!

## さんま会活動報告

昭和47年卒 田中 実

50歳半ばを過ぎた現在も現役で活躍する競輪選手、桜井久昭は私たちの先輩である。競輪王のタイトルを持つプロスポーツ選手が運動部の出身ではなく生物部OBで高Ⅱでは部長をつとめた。彼が部長になって最初に始めたことは週一回のランニングを生物部のクラブ活動に加えたことだ。私たちは飼育していたうさぎの餌をあげなければいけないながら、皇居周辺の草花を観察することもなく、運動靴は磨り減っていった。顕微鏡より

タイムウォッチをみるが多かったと思う。そんな個性の強い先輩が揃う、生物部OB会は樋山先生を囲む会として10年ほど前に再結成され、今年4月で8回目となる例会を開催いたしました。先生の現役当時の愛称からさんま会と称し毎年春に会えることを会員一同が楽しみにしています。なお、生物部以外のクラブに所属していた方も樋山先生に会いに来ませんか。

連絡先

〒123-0854

足立区本木東町15-8

TEL FAX

03-3886-3309



祝 第43回 総明会総会  
明治高校卓球部OB会  
**明卓OB会**

会長 高橋正侑（昭和38年卒）

昭和四十一年卒

菊本哲也

## 『ごとう会』について

昭和52年卒 大西静士郎

『ごとう会』は、退職された後藤朋智先生（化学）を囲んで歓談を楽しむ有志の会です。「ごとうだから五月十日でしょう」というあまりにも明高生らしい単純明快な語呂合わせにより、毎年五月十日（ひ）に当時の教え子たちをはじめとする先生にお世話になった者たちが、後藤先生と美恵子夫人をお呼びして開催しています。

後藤先生が退職された翌年

から始まったこの会も十回を越えました。今年も五月十日に銀座の『土風炉』に約三十名の人が集まりました。

学生時代に受けた後藤先生の授業を思い出させるような、先生の楽しいお話に触発されたように参加された方たちから思い出話が続出しました。

特に、今年は初めて参加された方、久しぶりに参加された方も多く、その方たちが披露されたお話で座が一段と盛り上がりました。

今年も後藤先生と奥様を囲んで、高校時代に戻ったような楽しいひとときを過ごすこ

とができました。これも多くの方々のご尽力のおかげだと感謝しています。ありがとうございます。

なお、この会は有志による手作りの会のため皆様にお声をかけきれないくらいがあります。そのためこの文章をお読みになって、後藤先生にお会いしたい、と思いいなされた方がいらっしゃいましたら、来年も五月十日に『ごとう会』を開催する予定ですので、ぜひ事務局（090・2533・0189・大西）までお問い合わせください。



昭和四十七年卒  
五木田・三浦法律事務所  
弁護士  
**三浦雅生**  
〒100-0061  
中央区銀座五丁目一  
第一御幸ビル四階五  
電話 三五七五〇一  
〇一九四〇階五

豆菓子・おかきの専門店  
有限会社 青山但馬屋  
代表取締役  
**太田垣政紀**  
(昭和五十一年卒 明々会)  
〒107-0061  
東京都港区北青山二丁目一  
電話 〇三三三三三  
FAX 〇三三三三三  
四一六六三三

お車のトータルサービス  
代表取締役 社長 **服部憲一**  
(昭和50年卒 明紫会)  
**株式会社 服部自動車板金工業**  
〒179-0073  
東京都練馬区田柄5-22-20  
TEL 03-3990-8541  
FAX 03-3998-0177  
E-mail: ken@hattori-auto.co.jp

祝 第43回総明会 総会  
昭和49年卒 翼明会  
**ターカム保険企画(有)**  
日本興亜損害保険株式会社  
日本興亜生命保険株式会社 代理店  
代表 **竹澤 啓**  
〒134-0084 東京都江戸川区東葛西9-20-3  
TEL 03-3675-9955  
FAX 03-3675-9922  
携 帯 090-3200-6139  
E-mail: takezawa@r2.dion.ne.jp

マンション企画・賃貸・管理・損保  
株式会社 **アドバンス**  
代表取締役 専務  
**大塚 清和**  
(昭和40年卒 明優会)  
〒279-0004  
千葉県浦安市猫実4-6-28ヨータワー  
TEL 047-355-6633(代)  
FAX 047-355-6634  
E-mail: apple@advance-jpn.co.jp  
http://www.advance-jpn.co.jp

**明治大学付属  
明治高校同窓会  
川口明高会**  
(設立 昭和53年)  
間もなく設立30周年記念事業を開催2008年  
明高会ホームページ <http://www.cablenet.ne.jp/~prout/>

初代会長	大熊 康浩
2代目会長	目良 昇
3代目会長	久松 勇
4代目会長	天野 洋一
5代目会長	荻野 布昌 (物故)
6代目会長	石井 次男
7代目会長	由本 俊昭
8代目会長	土屋 悌一郎

事務局 川口市峯307-4  
石井君忠  
048-294-3780



# 学校報告



## 2006年度 卒業式

昭和55年卒 紫魂会 新田 昌三

2006年度明治高校卒業証書授与式は平成19年3月10日、明治大学アカデミーコモン3階アカデミーホールで行われた。小生は父兄に混じって2階席からの観覧となったため、壇上を遠景で見下ろす形となった。

拍手とともに卒業生入場、そして開式の挨拶・国歌斉唱・来賓の紹介と進んだ。来賓は総勢28名、明治大学の理事長・学長・全学部長らが顔を揃えた。本年の卒業生は全208名で、明大へ192名、他大学へ16名と

なっている。これで明高の全卒業生数は14、427名となりまさに壮観である。学事報告のあとは卒業証書授与。

担任の先生が卒業生一人一人の名を呼んで起立させ、最後に総代の山本康太君が代表で証書を授与された。これに続き、優等賞・皆勤賞・精勤賞・総明会賞などの各賞状授与が行われた。優等賞が6名と多いのには驚いた。

吉田校長の式辞では、憲法改正問題に触れ、憲法を改正するかどうかについて、日本国民の一人として卒業後はじめて大きな決断を迫られるだ

ろうと説いた。また昨今の事情を鑑み、ぜひ平和の担い手になってほしいとも述べた。校長式辞の次は来賓の祝辞。

明大理事長・学長、PTA会長、総明会会長がそれぞれ登壇した。総明会会長の佐久間洋一氏は校歌の3番の歌詞の意味を説明され、校歌に対する同氏の思い入りを語った。

それから在校生を代表して、関佑斗君が送辞を読み、これまで自分たちを力強く引っ張ってきてくれた卒業生に感謝の意を述べ、これに対して卒業生代表の上野博義君が答辞で、将来に対する決意を述べた。

べた。

最後に、「仰げば尊し」・校歌の斉唱で式はクライマックスを迎え、閉式の挨拶後、「蛍の光」の曲に合わせ、卒業生が拍手の中、退場していった。校歌斉唱中には高校生活の思い出の写真のスライドが上映された。

本卒業式は万事清々粛々と執り行われ、卒業式の言わば完成形をみたように思う。我々の頃のような卒業生全員による帽子投げなどはなく、ちょっぴり寂しい気もするが、これはこれで大変いい卒業式だったと思う。

## 2007年度 入学式

昭和55年卒 紫魂会 新田 昌三

2007年度明治高等学校・中学校入学式は平成19年4月6日、明治大学アカデミーコモン3階アカデミーホールで行われた。天気は晴天でこの晴れがましい舞台にはふさわしい。小生のいた1階席は父兄でいっぱいとなり式の間中立ちこんどとなった。開式までのわずかな時間にマンドリン部がクラシックを2曲演奏して張り詰めた空気を和ませた。10時ジャストに開式、そのあと全員で国歌を斉唱した。それから登壇来賓の紹介があつた。

来賓は明治大学の理事長・学長をはじめ24名を数えた。続いて校長式辞。4月より明中・高は新たな校長を迎え、再スタートをきった。新校長は明中・高のOBで、珍しく民間出身であるが、挨拶はなかなか堂に入っていた。新校長は他人にない自己の特性を積極的に養い、個性を磨いてほしいと述べた。

校長式辞に続いて生徒宣誓が行われた。生徒全員が起立して、高校1年A組の野本悟史君が元気に宣誓した。次は来賓祝辞。明治大学理事長・長吉泉 明治大学学長 納谷廣美 P T A会長 秋元なお

子の各氏がマイクに向かった。納谷氏は中学生には最小・最低レベルのルールとマナーを学び、高校生には自己の目標・進むべき道を探し、難局にあたって逃げずに進んでいってほしいと述べた。

続いて学校役職者・主任・担任紹介があり、最後は校歌を3番まで斉唱して閉式となった。卒業式ではこの校歌斉唱が式全体のクライマックスとなり、目頭が熱くなるシーンもあったが、入学式では慣れない校歌に戸惑う感じもあり、いまいち盛り上がりには欠けた。



## 出陣式

(硬式野球部選手激励会)

「明治高校を甲子園に送る会」

渡辺 裕之

6月17日、大学会館に於いて恒例となりました硬式野球部の出陣式が盛大に執り行われました。出陣式も今年で4回目を迎え、共催団体である明球会・応援団OB会・送る会会員はもとより、教職員・PTA役員・野球部父母会・応援団父母会等多くの方々に出席頂きました。現役学生も野球部59名、応援団15名と大所帯となり、益々その活躍が期待されるところであります。昨年同様、明治大学の長吉理事長にも出席頂き、大学から

も大きな期待が寄せられていたことを痛感致しました。

本年は東京としては最後の大会となります。この記事が読まれている頃には第89回全国高等学校野球選手権大会も終了し、優勝校が決定しているとは思いますが、それが我が明治高校であることを信じて報告記事とします。

また来年からは西東京に移るわけであり、総明会会員皆様には下町の出身者の方が多く、試合球場が遠方になる事とは思いますが、是非母校の応援に駆けつけて頂きたいと思います。

\*「明治高校を甲子園に送る会」に入会希望の方がおりま

したら、左記に連絡お願いします。

事務局 渡辺裕之

(昭和55年卒紫魂会)

携帯 090-11254

071

メール 6tur@rondo.plala.or.jp



昭和五五年卒 紫魂会

渡辺企画

(有)九千・ブティックセレネ

渡辺 裕之

〒135-0013 東京都江東区千田二二一四

電話・FAX 〇三(三六四四)三五七八

携帯 〇九〇(一一二五)四〇七

メンズイージーオーダーズ、他アパレル全般

明治大学監事

明高野球部を甲子園に送る会 会長

山 浦 晟 暉

昭和29年卒

TEL. 03-3378-2151

## 明治高校報告

昭和55年卒紫魂会 遠藤 安彦

本校卒業生9名が「2006年度 公認会計士試験」に、1名が「2006年度 司法試験」に合格しました。おめでとうございます

## 公認会計士試験合格者

島田一之 (1994年度卒)  
吉開洋介 (1998年度卒)  
金子正憲 (2000年度卒)  
有賀恒介 (2002年度卒)  
小倉 章 (2002年度卒)  
木村寛人 (2002年度卒)  
岸 宏行 (2002年度卒)  
金光 淳 (2002年度卒)  
鈴木 努 (2003年度卒)  
司法試験合格者  
米倉圭一郎 (1998年度卒)

## クラブ活動報告

## 陸上競技部

高Ⅱ 酒井喬樹

都大会男子5000m

2位入賞、関東大会出場

(2006年10月)

## 高Ⅲ 陳修明

都大会三段跳び5位入賞

南関東大会出場

(2007年5月)

## 高校卓球部

平成18年度東京都新人大会

団体戦、第5位入賞

関東大会出場

(2006年11月)

都大会ダブルス

栗原・菅野組3位、団体戦6位

関東大会出場

(2007年5月)

## 吹奏楽班

第48回定期演奏会

昭和女子大学人見記念講堂

にて開催

(2007年1月28日)

## マンドリン部

第48回定期演奏会

日大カザルスホールにて開催

(2007年2月4日)

## その他

第14回 読売演劇大賞

最優秀スタッフ賞

二村周作 (1986年度卒)

## 硬式野球部新球場柿落とし

昨年11月19日、「内海・島

岡ボールパーク」内に新設さ

れた明治高校野球部球場の球

場開きとして、昨年夏の甲子

園大会で全国制覇を果たした早稲田実業との練習試合が行なわれました。試合開始前には簡易式典が硬式野球部主催で行なわれ、来賓として、早実・和泉監督、甲子園に送る会の山浦会長が祝辞を述べ、プレイボールとなりました。残念ながら試合結果は本校の連敗となってしまうましたが、新球場を足がかりに今後、野球部が大いなる飛躍をすること信じております。

## 第1試合

明治 0 - 6 早実

第2試合(降雨5回コールド)

明治 0 - 3 早実

# 第43回総明会 御寄付者一覧

(敬称略)  
(八月末現在)

## ◎総明会行事

評議委員会・班部OB懇親会参加者有志  
金 四万八千円

## ◎学校関係

白駿会有志一同様  
金 十三万六千円

## ◎同期会・クラブOB会その他

猿楽会 (26年卒)

金 三万円

明窓会 (28年卒)

金 四万五千円

明治会 (32年卒)

金 二万七千円

三七会 (37年卒)

金 八万四千円

明優会 (40年卒)

金 五万一千円

紫讃会 (43年卒)

金 九万五千円

男坂倶楽部 (44年卒)

金 十二万五千円

獅子の会 (45年卒)

金 五万円

翼明会 (49年卒)

金 四万一千円

明紫会 (50年卒)

金 五万四千円

明々会 (51年卒)

金 七万二千円

男子校根性組 (52年卒)

金 九万円

明誠会 (54年卒)

金 二十二万四千円

応援団OB会

金 三万円

見心会 (剣道部OB会)

金 二万円

さんま会

金 二万九千円

卯の木会

金 六万八千円

川口明高会

金 五万円

ごとう会

金 五万三千円

## ◎個人

金 十万円

中田 貢弘 (37年卒)

金 四万円

福島 啓允 (37年卒)

金 三万円

服部 雄二 (44年卒)

熊倉 章雄 (54年卒)

金 二万円

横山 茂樹 (52年卒)

竹越 利之 (53年卒)

金 一万円

加藤 一也 (39年卒)

阿部 正行 (40年卒)

村西 一郎 (42年卒)

中村 正容 (43年卒)

細矢日出男 (43年卒)

吉田耕太郎 (45年卒)

戸張 毅 (47年卒)

廣野 宏士 (47年卒)

坂上 真啓 (49年卒)

内木 幸助 (50年卒)

水上 泰良 (54年卒)

金 九千円

藁谷 豊 (44年卒)

金 三千円

谷 慈義 (39年卒)

三田 幹男 (43年卒)

今井 新二 (44年卒)

高橋 錦司 (50年卒)

関係者各位から暖かいご支援をいただき誠にありがとうございました。  
お預かりした寄付金ならびに広告代は大切に使用させていただきます。

## 幹事学年 寄付者一覧

## 二万円

伊東 正明  
大橋 泰男  
和田 博充加藤 誠  
河田 泰常  
喜多 明  
笹川 榮一  
澤田 佳也

## 一万五千元

生田 好正  
小川 洋平  
鈴木 一也  
橋本 陽一  
馬場 栄一菅野 栄一  
富山 裕明  
新田 昌三  
野口 幸保  
廣田 敦

## 一万円

内田 浩  
遠藤 安彦  
大迫 好孝  
大野 康之吉口 市郎  
渡辺 裕之

## 注意

総明会は、「個人情報  
保護に関する法律」(個人  
情報保護法)に規定される  
個人情報取扱事業者とし  
て、独自に「個人情報保  
護に関する規則」を策定  
し、個人情報保護法・そ  
の他法令に照らして適正  
且つ公正な手段によって  
会員に関する情報を収集  
し、お預かりした情報を  
適切に取り扱うとともに、  
正確性・機密性の保持に  
努めてまいります。この  
規則は本会報の製作にも  
生かされております。

11月17日の総明会には皆様の多数  
のお越しをお待ち致しております。

## 紫魂会

(昭和55年卒)

第43回総明会実行委員会（昭和55年卒紫魂会）

実行委員長

渡辺裕之

事務局

大迫好孝

会計委員

広田 敦

澤田佳也

会報委員

新田昌三  
喜多 明

遠藤安彦  
笹川榮一

企画・総会委員

菅野栄一

寄付広告委員

山田健二  
富山裕明

河田泰常  
吉口市郎

ゴルフ委員

内田 浩  
志村和哉

加藤 誠  
広田 敦

祝 第43回総明会・懇親会

# 明 翔 会

（昭和56年卒）

第44回 総明会幹事学年

## 恩 師 の 訃 報

平成18年10月12日 境田啓一先生 享年80歳

謹んでご冥福をお祈り致します。



# 前年度幹事学年挨拶

## 第42回総明会実行委員長

昭和54年卒明誠会 熊倉 章雄

## 第43回総明会総会・懇親会

の開催、誠におめでとう御座います。幹事学年である紫魂会のみなさん、大変お疲れ様です。幹事学年は確かに大変ではありますが、それゆえにやりがいがあり、また、先輩・後輩・同期を通しての絆が深まる絶好のチャンスでもありますので、思い切り楽しんでやってください。

さて、昨年第42回総明会総会・懇親会の開催に当たりましてご協力を賜りました関係各位の皆様、大変有難う御座いました。お蔭様を持ちまし

て盛会のうちにも滞りなく幹事学年を勤め上げられたのではないかとほっと胸をなでおろしているところで御座います。

昨年の総会・懇親会、そして会報のテーマは「男坂讃歌」未来の後輩たちへ。でした。校地移転を2年後に控え、まだ見ぬ後輩たちへ何を残し、何を伝えたいのかを模索しました。

会報の原稿は順調に集まり、やはり皆さんが校地移転に関しましては大きな関心を寄せており、期待と不安、希望と心配が入り混じっているのだと感じさせられました。

寄付・広告活動においては、

長年に渡り、諸先輩方のご協力によって、総明会が支えられているのがよく理解でき、頭の下がる思いで一杯であります。時に失礼のあったことをこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

総会・懇親会に並ぶ、総明会チャリティーゴルフ大会の開催も関係各位のお力添えにより、百名近くの参加者を迎えて盛大に行われました。コースの副支配人が、これまた明治の卒業生であるというのも大きな力であります。

総会・懇親会当日は、担当委員はもとより、同期70名が団結しての八面六臂の活躍であります。もちろん、応援団

OB、マンドリンクラブOBのご協力は大変有難いものでありましたし、華を添えてくれた明治大学チアリーダーの皆様にも感謝申し上げます。「男坂讃歌」未来の後輩たちへ 私たちは、会報のサブタイトルを「男坂」と命名し、その筆耕を昭和26年卒の卯木氏にお願いしました。この会報を後輩に残します。

そして後輩に伝えていくことは、先輩を敬うこと、同期を大切にすること、後輩を好きになること。そして何よりも、明治を愛することである。一年間の活動の中で教えて頂いたことです。

## 次年度幹事学年抱負

昭和56年卒 明翔会 齊木麻州男

第43回総明会、総会並びに懇親会の開催、誠におめでとうございます。

これもひとえに総明会佐久間会長をはじめ役員・執行部の皆様、また学校関係の皆様方の永年に亘るご尽力の賜物であると感じております。

また本年度ホスト学年の『紫魂会』の先輩諸兄に於かれましては、公私ともに忙しい中での一年間の準備期間のご活躍、大変お疲れ様でございます。我々後輩から見て並々ならぬ努力とお氣遣いに

頭が下がる思いでございます。本当にありがとうございます。

さて私たちは昭和56年卒『明翔会』と申します。卒業後5回程同期会を開催しておりますが、今年の6月より本格的に会合を開き総明会の準備を行ってまいりました。同期一同、総明会の名に恥じない総会・懇親会にしようと努力精進しております。が、なかなか前に進んでいないのが現状でございます。

いよいよ来年4月から明治中学校・明治高等学校は調布に移転し共学となります。我々が移転第一回目の総明会のホスト学年になる訳です。この

節目の幹事学年として大きな責任を感じると同時に多くの不安が募っているのが正直な気持ちです。しかしながら新たな明治中学校・明治高等学校のスタートに素晴らしい花を添える事が出来る様気合いを入れて臨む事をお約束致します。『明治魂』を胸に一生懸命努めさせて頂く所存でございます。是非とも総明会役員・執行部の皆様並びに諸先輩皆様方のアドバイスを頂きながらご満足頂ける総会・懇親会になる様、明翔会一同全力で邁進してまいります。

今年の懇親会のテーマが「さらば男子校」とお聞きし

ました。私個人的になんとか寂しい思いがしております。例えば学生時代に男子しかいない学校で教室・部室と汗臭かった？事を懐かしく思います。その反面共学になって羨ましいという気持ちも少しあります。何れにせよみんなから愛される学校になって欲しいと思っております。

最後になりましたが、本総会・懇親会に一人でも多くの同窓生が参加され、盛大な会になります様ご祈念申し上げます。次年度幹事学年のご挨拶とさせていただきます。今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

## 幹事学年挨拶

昭和55年卒紫魂会 実行委員長

渡辺 裕之

明治高校を卒業して早27年が経ちました。今までの自分の人生を振り返り、今更ながら明治という学校の存在の大きさに感謝致しております。

学生時代はもとより社会人になってからも、仕事で上司が得意先に私を紹介する際「彼は明治で応援団をやっていたんですよ」と決まり文句の様に言われました。(もしかしたら、それ以外に仕事等で褒める事がなかったせいかもしれないませんが・・・)なんにせよ「明治」をきっかけにそこから話題を広げていくのが未

だに私のビジネスストークの基本になっております。そしていつか母校に恩返しをせねばと思いつつ、本年度幹事学年が回ってまいりました。また来年度調布への移転、男女共学化という節目の年という事もあり、今年一年、先輩諸兄からも御指導御鞭撻を頂きながら同期スタッフ一同頑張っております。

総会懇親会には何度も出席してきましたが、いざ自分たちで仕切るとなると何から手を着けて良いのかも分からず、昨年六月に同期会の名前を決めそこからのスタートとなりました。昨年度幹事学年の「明誠会」の先輩諸兄から引

継ぎを受けたあともしばらくは担当役職もはっきりしないまま活動を続けていましたが、そうこうしているうちに、どうにか会報・寄付広告・総会担当等役割も自然と形成され、それぞれが自分の仕事に没頭する様になりました。同期スタッフの中には、高校卒業以来27年ぶりに会った友人もいました。皆、母校に対する思いは熱くすぐにそのブランクは埋めることが出来ました。以前、他校の友人に「明治のOBは母校愛の強い人が多いよね。まるで宗教法人・明治教だね」と言われた事がありました。今回幹事を務め同期はもとより多くの先輩諸

兄からご指導ご助言を頂く際にフツとその言葉が思い出されました。この原稿が皆様に読まれている頃には総会当日まで残すところ一ヶ月というラストスパートの時期になって居ることと思いますが、明治中学高校の御茶ノ水駿河台の方々と楽しめるよう、そして思い出に残る総会懇親会になるよう紫魂会一同、努力精進して関係者各位・先輩諸兄・後輩諸君の多数の参加をお待ち申し上げております。

最後になりますが先輩をはじめこの一年間お世話になりました方々に厚く御礼申し上げます。

明治中学・高校水泳部OB会

# 明水会

会長 村嶋大三郎 (S34卒)

事務局 東京都江戸川区平井3-23-11  
中村明彦 (S46卒) 内  
TEL&FAX 03-3638-7640

吉武孝生税理士事務所

昭和五十年卒 明紫会

〒121-0813

東京都足立区竹の塚一三六  
一七五  
五二一  
一〇号

TEL 03-3585-1151  
FAX 03-3585-1151  
E-mail: t.yotax-yoshitake.com

## 株式会社 サンリッツ

# SANRITZ

CORPORATION

営業品目 液晶ディスプレイ用プラスチック偏光板、通信機器周辺製品

代表取締役社長 三 上 嗣 治 (昭和44年卒)

取締役 島 野 竹 夫 (昭和46年卒)

〒176-0094 東京都板橋区成増1-30-13

TEL 03-3930-1101

FAX 03-3930-1167

URL <http://www.sanritz-corp.co.jp> E-mail [sohmu@sanritz-corp.co.jp](mailto:sohmu@sanritz-corp.co.jp)

昭和55年卒  
菅野栄一

昭和43年卒

株式会社 ホソヤ

代表取締役

## 細矢 日出男

〒104-0042

東京都中央区入船 2-3-6 第1細矢ビル

TEL 03-3551-0725

FAX 03-3551-0748

昭和55年卒  
山田健二

## 上陽テクノ株式会社

代表取締役

## 阿部 正行

(昭和40年卒)

千代田区外神田 6-10-11

TEL. 03-3834-1329

# 総明会（明治大学付属明治高等学校同窓会）会則

## 第1章 総則

### （名称）

第1条 本会は、総明会と称する。

### （目的）

第2条 本会は、会員相互の結束と親睦を図り、且つ母校のためにこれを賛助することを目的とする。

### （事業及び会計処理）

第3条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- 1 母校に対する賛助活動を推進すること。
- 2 会員名簿を整備、管理すること。
- 3 会報などの広報物を発行すること。
- 4 同期会の結成を助成し、奨励すること。
- 5 支部OB会の開催を助成し、奨励すること。
- 6 その他、本会の目的を達成するために必要なこと。

② 前項に定める事業はすべて一般会計として処理する。ただし、会長は、理事会の議決と評議員会の承認を得て、前項1号ないし6号に定める一部もしくは全部を特別会計として処理することができる。

### （事務局、所在地）

第4条 本会の事務を行うために事務局を設ける。事務局は、明治大学付属明治高等学校内に

置く。

## 第2章 会員

### （会員資格）

第5条 本会は、旧制、新制明治中学校、明治大学八丈高等学校もしくは明治高等学校の卒業生ならびに同校に在籍したことのあるものを会員とする。

### （入会金及び終身会費）

第6条 会員は、入会の時に入会金及び終身会費を本会に納入するものとする。入会金及び終身会費の額ならびにその徴収の方法は、理事会が明治大学付属明治高等学校校長（以下「校長」という）の同意を得て定める。

### （特別会員）

第7条 母校の教職員であるもの及びその職にあつたものを特別会員とする。

② 特別会員は、本会が行う事業に参加することができ。

## 第3章 役員

### （役員の種類及び定員）

第8条 本会に理事10人以上20人以内及び監事2人を置く。

② 本会に会長1人、副会長3人以内、専務理事1人、事務局長1人、会計1人を置く。

③ 必要であれば、本会に常務理事を若干名置くことができる。

### （役員の選任）

第9条

会長及び副会長の選任は、別に定める「会長及び副会長選出規定」に基づいて選定し、理事会及び評議員会の承認を受け、総会の決議をもってこれを選任する。会長及び副会長はその就任と同時に理事となる。但し、任期中途で会長及び副会長を補充すべき場合は、「会長及び副会長選出規定」に準じて選定し、理事会及び評議員会の承認を得て選任することができる。この場合は選任直後の総会において承認を得るものとする。会長及び副会長以外の理事並びに監事（以下「会長選任役員」という）は、会員の中から、会長が選任する。会長選任役員は、選任後最初の評議員会の承認が得られなかったときは、選任されなかったものとみなす。これにより会長選任役員に欠員が生じたときは、会長は欠員のないように直ちに役員を選任しなければならない。

③ 専務理事、常務理事及び事務局長並びに会計は、副会長の同意を得て、会長が理事の中から選任する。

④ 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

⑤ 会長は、副会長の同意を得て、いつでも会長選任役員を解任することができる。これにより会長選任役員に欠員が生じたときは、会長は欠員の無いように直ちに役員を選任しなければならない。

⑥ 理事は評議員を兼務できない。

(理事会)

第10条 本会の会務の執行は、理事会がこれを決する。

② 理事会は理事をもって構成する。

③ 理事会は会長がこれを招集する。

④ 理事会の議長は、会長又は会長が指名したものがこれにあたる。

⑤ 理事会の議事は、出席理事の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

⑥ 理事は書面により理事会の決議に加わることができる。

⑦ 監事は、理事会に出席し意見を述べることができる。

(会長等の職務)

第11条 会長は本会を代表し、会務を総理、執行する。

② 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名した順位にしたがい会長の職務を代行する。

③ 専務理事は、会長の指揮のもとに会務を総括して司り、かつ事務局を総括する。

④ 常務理事は、専務理事を補佐する。

⑤ 事務局長は、専務理事の指揮のもとに事務局を統括する。

⑥ 会計は、本会の会計及び財産の状況並びに会務の執行を行う。

⑦ 理事は、会務を分担する。

(監事の職務)

第12条 監事は、本会の会計及び財産の状況並びに会務の執行を監査する。

② 監事は、監査の結果を定時総会に報告する。

(名誉役員)

第13条 本会に名誉会長、名誉顧問及び顧問、相談役を置くことができる。

② 名誉会長、名誉顧問及び顧問、相談役は、本会又は母校に永年にわたり特別に功労のあったものの中から理事会が推薦し、評議員会の承認を得て会長がこれを委嘱する。

③ 学校法人明治大学の総長、学長は、その在任中、名誉顧問としてそれぞれこれを推薦する。

④ 明治大学付属明治高等学校の校長は、その在任中、顧問を推薦する。

⑤ 相談役は、会務に永年にわたり功労のあった者の内から理事会が推薦し、評議員会の承認を得て会長がこれを委嘱する。

第14条 定時総会は毎年1回開催し、臨時総会は必要のあるときに開催する。

② 総会は、会長がこれを招集する。

③ 総会の招集は、本会が発行する会報に掲載し、もしくはその他の方法で会員に通知して行う。

(総会の議事)

第15条 総会は、この会則に定める事項及びその他の重要な事項のうち理事会が提案し、評議員会が必要と認めた事項を総会における審議事項として決議する。

② 総会の議長は、会長又は会長の指名したものがこれにあたる。

③ 総会の議事は、出席会員の過半数でこれを決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(懇親会の開催)

第16条 懇親会は、会員の懇親を目的として毎年1回開催する。

② 懇親会の開催に関する事項は、理事会が決定し、評議員会の承認を得て、会長が会員に通知する。この通知は、総会の召集通知に準じて行う。

第5章 委員会

(委員会の設置)

第17条 本会は、第2条の目的の達成及び第3条の規定に掲げる事業の遂行のために必要な事

第4章 総会及び懇親会  
(総会の招集)

項を調査、研究、審議し、または実施する機関として委員会を設けることができる。

② 委員会は、会則に定めるほか理事会の決議により設置する。

③ 委員会は、委員長1人及び委員2人以上をもって構成する。

④ 委員会は、理事会の承認を得て会長がこれを委嘱し、委員は、会員及び特別会員のの中から会長の同意を得て委員長がこれを委嘱する。

⑤ 委員会は、委員長がこれを主宰する。

⑥ 委員長は、その就任と同時に理事となる。

## 第6章 評議員及び評議員会

### (評議員)

#### 第18条

① 本会に、卒業学年毎に2人以内の評議員を置く。同期会は、同期会の会員のうちから評議員を選任して本会に届けるものとする。

② また、総明会に登録した班部OB会毎に1人の評議員を置くことができる。評議員を選任した場合は、本会に届けるものとする。

③ 同期会が結成されていないか、もしくは同期会において評議員を選任できない事情があるときは、会長は、当該学年のために同学年の中から仮評議員を選任できる。

④ 総明会に登録すべき班部OB会が結成されていないか、もしくは班部OB会に評議員を選任できない事情がある場合は、評議員

を置くことができない。

④ 同期会の評議員と班部OB会の評議員は兼任できない。

### (評議員の職務)

#### 第19条

① 評議員及び仮評議員は、評議員会に出席するほか、本会の事務のうちその属する学年もしくは同期会及び班部OB会の関係で必要な事務を処理する。

② 評議員及び仮評議員は、適宜代行者を選任して評議員会への出席、その他の事務処理を代行させることができる。

### (評議員会)

#### 第20条

① 評議員会は、この会則に定める事項及びその他の重要な事項につき議決する。

② 評議員会は、会長が適宜これを招集する。

③ 評議員会の議長は、会長もしくは評議員の中から会長が指名したものがあたり、その進行は事務局長が行う。

④ 評議員会の議事は、出席評議員、仮評議員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

## 第7章 同期会

### (同期会)

#### 第21条

① 会員は、学年ごとに同期会を組織するものとする。

② 同期会は、同期会名簿を整備し、運営に関する準則を定めるものとする。

③ 同期会は、その選任した評議員の職務の執行を助けなければならない。

④ 同期会は、同期会の総会を開催したときは、本会に報告するものとする。

## 第8章 班部OB会

### (班部OB会)

#### 第22条

① 会員は、在学中在籍した班部ごとに班部OB会を組織することができる。

② 班部OB会は、OB会名簿を整備し、運営に関する準則を定めるものとする。

③ 班部OB会は、その選任した評議員の職務の執行を助けなければならない。

④ 班部OB会は、OB会の総会を開催したときは、本会に報告するものとする。

## 第9章 会計

### (会計の分類と会計年度)

#### 第23条

① 本会の会計処理は、一般会計と特別会計に区分して行い、特別会計はこの会則に定めのある場合の他、理事会において特に定めた会計に関する会計処理、一般会計は特別会計を除いたすべての会計処理とする。

② 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

#### 第24条

(基金)  
① 理事会は、本会の財政基盤を安定させ、また第3条に定める事業の遂行資金を形成す

るため基金を積立てる努力をしなければならない。

② 基金は、特別会計（以下「基金特別会計」という）で処理する。

③ 入会費、寄付金のうち理事会で基金に組入れることを決議したもの、並びに基金へ組入れることを目的とする寄付金（以下「特別基金」という）は、基金として基金特別会計に計上し、この会則に定めのある場合を除き支弁することはできない。

④ 基金は、財政基盤基金と事業遂行基金をもって構成する。

⑤ 基金への組入金は、財政基盤基金の総額に満つるまで優先してこれに充当する。

⑥ 財政基盤基金の総額は、総会の決議により決定もしくは変更する。この場合、第26条の定め（特別決議）を準用する。

⑦ 財政基盤基金は、原則として取崩すことができない。ただし、総会において承認を得た場合はこの限りではない。この場合、第28条の定め（特別決議）を準用する。

⑧ 基金のうち、財政基盤基金の総額を超える額を事業遂行基金とする。

⑨ 事業遂行基金は、第3条1項1号に定める事業もしくは理事会で決議した事業に支弁するため、理事会及び評議員会の決議によりこれを取崩し、当該事業のために支弁することができる。

⑩ 会長は、緊急に対処を要すると認めた事項（以下「緊急処理事項」という）のために、副会長の同意を得て、事業遂行基金を取崩し緊急処理事項に支弁することができる。

⑪ この場合、会長は、緊急処理事項が生じた後、最初に開催される総会において、当該事項の緊急性及び事業遂行基金取崩しの必要性を説明し、取崩しについて承認を得なければならぬ。

⑫ 事業遂行基金を支弁して行う事業を検討するため、本会に基金事業委員会を設置する。第17条4項の定めにかかわらず、この委員会は委員長1人と委員8人をもって構成し委員は理事の中から委員長が選任する。

#### （経費） 第25条

⑬ 本会の経費は、入会費（ただし基金組入れ分を除く）、終身会費及び寄付金（ただし基金組入れ分を除く）並びに一般会計に属する財産から生じる果実その他特別会計に属さない収入をもって支弁する。

#### （予算） 第26条

⑭ 会長は、会計年度の終了する前に、理事会の承認を得て翌会計年度の予算を作成する。翌会計年度の予算は、評議員会の承認を得て、総会に提出してその承認を得なければならぬ。

⑮ 前項により、会長は、その会計年度の最後に開催される評議員会に翌会計年度の予算

を提出し、その承認を得た場合は、翌会計年度の初めから総会開催の日までの間、その予算を執行できるものとする。

#### （決算） 第27条

⑯ 本会の収入支出の決算は、監事がこれを監査し、会長がこれを総会に提出して報告しなければならない。

⑰ 基金特別会計の決算報告においては、財政基盤基金と事業遂行基金を区別し、それぞれの収支の概要及び決算時の在り高のほか、特別基金の累計額を報告するものとする。

#### 第10章 補則

##### （特別決議） 第28条

⑱ 本会の会則の改正は、総会における出席会員の4分の3以上の多数による決議によらなければならない。

##### （届出） 第29条

⑲ 会員は、氏名、住所及び職業を変更したときは本会に届け出るものとする。

##### ⑳

㉑ 同期会は、同期会員名簿及び役員名簿を本会事務局に届け出るものとする。

##### ㉒

㉓ 班部OB会は、OB会名簿及び役員名簿を本会事務局に届け出るものとする。

#### 附則

（経過措置1）  
第1条（年会費同期会）



前回の会則の改正が施行された平成11年1月1日以前に会員となった者で構成される同期会（以下「年会費同期会」という）が納入する年会費については、次に会則改正のあるまで改正前の第7条の定めによるものとする。

## 第2条（年会費）

同期会の納入する年会費は、第25条の定める経費に支弁する。

## （経過措置2）

## 第1条（年会費班部OB会）

班部OB会は、本会を運営する費用に充てするための年会費を納入するものとする。年会費の額及びその納入方法は、評議員会で定める。

## 第2条（年会費）

班部OB会の納入する年会費は、第25条の定める経費に支弁する。

## （施行期日）

この会則の改正は、平成18年12月3日より施行する。

## （参考）

## 改正前第7条（年会費）

同期会は、本会を運営する費用に充てたための年会費を納入するものとする。年会費の額及びその納入方法は、評議員会で定める。

## 総明会 会長及び副会長選出規定

会則第9条1項に基づき、会長及び副会長の選出は本規程により行う。

## （選出委員会の設置、解散、委員の選出）

## 第1条

会長及び副会長の選出を行う場合は「選出委員会」（以下委員会という）を設置する。委員会は役員改選又は補充の時期に合わせ、十分な期間を考慮し、理事会が設置する。

## ②

委員会の構成は、委員長1人、委員6人とする。委員の選出は理事会及び評議員会で

## ③

各々3人とする。委員長は会長が指名したものがこれにあたる。

## ④

委員会の解散は、総会において会長及び副会長が選出された時点とする。

## 第2条

（会長、副会長の選出、承認について）

委員会は、会長及び副会長の選出にあたり、推薦及び立候補を受け、その者をもって候補者とする。

## ②

候補者の中より、会長及び副会長候補者を選出する。選出においては全員一致を原則とするが、定員に絞り込めない場合は、その状態で選出終了とする。

## ③

理事会は、委員会より選出された候補者の承認を行う。

## ④

評議員会は、理事会で承認された候補者の承認を行う。

## ⑤

評議員会において承認された会長、副会長は、総会の決議をもって、これを選任する。

## （理事会の承認）

第3条 委員会より選出された会長候補者が1名の場合、理事会において過半数の信任をもって承認されたものとする。

② 委員会より選出された会長候補者が2名以上の場合、理事会において投票を行い、最も得票数の多い候補者を会長候補者として承認する。

## ③

委員会より選出された副会長候補者が3名の場合、理事会において過半数の信任をもって承認されたものとする。

## ④

委員会より選出された副会長候補者が4名以上の場合、理事会において投票を行い、得票数の多い順に3名を副会長候補者として承認する。

## （評議員会の承認）

第4条 理事会より選出された会長及び副会長候補者は、評議員会において過半数の信任をもって承認されたものとする。

## （会長、副会長の資格）

第5条 会長及び副会長は、総明会会員として20年以上在籍し、かつ評議員又は理事を経験していることを資格とする。

この規定は、平成18年12月3日より施行するものとする。

平成19年10月吉日

明治大学付属明治高等学校・中学校同窓会  
「総明会」会員 各位

明治大学付属明治高等学校・中学校同窓会  
総明会会長 佐久間 洋一

明治高校「西調布校舎移転」並びに  
「創立100周年」記念事業への寄付のお願い

母校明治高校は、2008年3月に長年慣れ親しんだ神田駿河台（猿楽町）から西調布へ移転し、より一層の飛躍を目指しています。また、2012年には、母校が学校創立100周年を迎え、さらに歴史の重みを具えた学校となります。

そこで明治高等学校中学校同窓会・総明会では母校へ記念品（西調布校舎移転記念品・創立100年記念品）を寄贈する計画とそれに伴う寄付の募集を決定し、昨年度より総明会会員の皆様にご寄付のご協力をお願いしております。母校の再出発と飛躍にご理解とご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

なお、西調布校舎移転に際して寄贈する記念品は、学校側と協議し、理事会、評議会で承認を受けたものを寄贈する予定でございます。本年度の総明会の総会で、会員の皆様に記念品の具体的なご報告ができるものと思います。

また、今回の寄付につきましては、学校側の協力が得られましたことから、学校から税控除の対象となる証明書（注1）が発行されることになりました。

注1：証明書の発行は、皆様のご寄付の年度ではなく、総明会としてまとめて学校に寄付行為を行う2008年3月以降及び2012年の2回にまとめて発行（後日、郵送）されますのでご注意ください。

## 記

1. 寄 付 金 額      1口   1万円以上  
(平成24年まで、複数回数の納付可能です。)
2. 寄付募集期間      2006年10月から2012年12月
3. 寄付目標金額      1,000万円
4. 申   込   先      同封の「郵便振込用紙」により、お近くの郵便局にて振込みをお願いいたします。  
なお、お手数ですが管理の関係から通信欄に「明治高校卒業年月」(例：昭和49年3月卒)を記入して下さい。  
また、税控除の証明書が必要な方は、上記に加えて明治大学の卒業学部名と「証明書必要」と記入してください。
5. 振   込   先      口座番号 00170-6-93825  
加入者名  
「明治高等学校同窓会総明会」
6. 問 合 せ 先      総明会・会計   中村 正容  
TEL(携帯)090-4411-1684  
総明会・財務委員長  
佐藤 真弘  
TEL(携帯)090-8500-5447

発 行

明治大学付属明治高等学校・中学校同窓会

総 明 会

<http://meiji.cside7.com/>

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-4-1

明治大学付属明治高等学校内

TEL 03-3296-4555

編集／紫 魂 会（昭和55年卒業）

会 報 委 員 会

印刷／赤 岩 印 刷